

河流	八四
海岸及港灣	八五
岬角	八七
島嶼	八八
湖沼及瀑布	九二
溫泉	九三
都邑	九三
名所、舊蹟、神社、佛閣	九五
沿革	九八
鐵道	九九
馬車鐵道	一〇七
航路	一〇七
人口及風俗	一一一
氣候及地味	一一一
鑛山及物產	一一二

東山道

位置及疆域	一一三
地勢及面積	一一三
山嶽	一一三
河流	一一六
海岸及港灣	一一八
海峽	一一九
岬角及島嶼	一一九
湖沼及瀑布	一二〇
溫泉	一二二
都邑	一二三
名所、舊蹟、神社、佛閣	一二六
沿革	一二九
鐵道	一三〇
航路	一三四

北陸道

人口及風俗	一三四
氣候及地味	一三五
鑛山及物產	一三五
位置及疆域	一三七
地勢及面積	一三七
山嶽	一三八
河流	一三九
海岸及港灣	一三九
岬角	一四〇
島嶼	一四一
湖沼及瀑布	一四二
都邑	一四三
名所、舊蹟、神社、佛閣	一四四
沿革	一四五

山陰道

鐵道	一四六
航路	一四八
人口及風俗	一四九
氣候及地味	一四九
鑛山及物產	一五〇
位置及疆域	一五一
地勢及面積	一五二
山嶽	一五二
河流	一五二
海岸及港灣	一五三
岬角	一五四
島嶼	一五四
湖沼及瀑布	一五四
溫泉	一五五

都邑	.....	一五六
名所、舊蹟、神社、佛閣	.....	一五六
沿革	.....	一五八
鐵道及航路	.....	一五八
人口及風俗	.....	一五九
氣候及地味	.....	一五九
鑛山及物產	.....	一六〇
<b>山陽道</b>		
位置及疆域	.....	一六一
地勢及面積	.....	一六一
山嶽	.....	一六一
河流	.....	一六二
海岸及港灣	.....	一六三
岬角及海峽	.....	一六四
島嶼	.....	一六四

湖沼及瀑布	.....	一六五
温泉	.....	一六六
都邑	.....	一六六
名所、舊蹟、神社、佛閣	.....	一七二
沿革	.....	一八〇
鐵道	.....	一八一
航路	.....	一八五
人口及風俗	.....	一八七
氣候及地味	.....	一八七
鑛山及物產	.....	一八七
<b>南海道</b>		
位置及疆域	.....	一八九
地勢及面積	.....	一八九
山嶽	.....	一九〇
河流	.....	一九一

海岸及港灣	.....	一九二
岬角及海峽	.....	一九二
島嶼	.....	一九三
湖沼及瀑布	.....	一九四
温泉	.....	一九五
都邑	.....	一九五
名所、舊蹟、神社、佛閣	.....	一九七
沿革	.....	二〇〇
鐵道	.....	二〇一
航路	.....	二〇一
人口及風俗	.....	二〇三
氣候及地味	.....	二〇三
鑛山及物產	.....	二〇四
<b>西海道</b>		
位置及疆域	.....	二〇五

地勢及面積	.....	二〇五
山嶽	.....	二〇五
河流	.....	二〇六
海岸及港灣	.....	二〇七
岬角及海峽	.....	二〇八
島嶼	.....	二〇八
湖沼及瀑布	.....	二一〇
温泉	.....	二一〇
都邑	.....	二一一
名所、舊蹟、神社、佛閣	.....	二一四
沿革	.....	二一五
鐵道	.....	二一六
航路	.....	二一九
人口及風俗	.....	二二〇
氣候及地味	.....	二二一

鑛山及物產 ..... 二三一

北海道

位置及疆域 ..... 二二二

地勢及面積 ..... 二二三

山嶽 ..... 二二三

河流 ..... 二二三

海岸及港灣 ..... 二二四

岬角及海峽 ..... 二二五

島嶼 ..... 二二六

湖沼及瀑布 ..... 二二七

溫泉 ..... 二二八

都邑 ..... 二二八

古趾 ..... 二三一

沿革 ..... 二三一

鐵道 ..... 二三二

航路 ..... 二三四

人口及風俗 ..... 二三九

氣候及地味 ..... 二三九

鑛山及物產 ..... 二四〇

臺灣

位置及形狀 ..... 二四一

地勢 ..... 二四二

面積及人口 ..... 二四二

山嶽及原野 ..... 二四三

河流 ..... 二四五

港灣 ..... 二四六

風景 ..... 二四七

沿革 ..... 二四八

行政區劃 ..... 二四九

氣候 ..... 二四九

附錄

物產 ..... 二五〇

風俗 ..... 二五〇

屬島 ..... 二五一

全國官私設鐵道哩程 ..... 二五五

自東京至各地  
方輿地理程 ..... 二五六

自各地至臺灣哩程 ..... 二五八

本邦不接海國 ..... 二五八

本邦內最大最小國 ..... 二五八

東京郵便電信局各地  
差立郵便物締切時限 ..... 二五八

大阪郵便電信局各地  
差立郵便物締切時限 ..... 二六〇

小田原鐵道馬車賃金 ..... 二六一

自國根湯本人力車  
鐵道馬車停及駕籠賃  
車場至各地 ..... 二六一

自國根宮之下  
至各地人足賃 ..... 二六二

自新橋停車場至東京  
府下各區人力車賃 ..... 二六二

大阪梅田停車場  
場人力車賃 ..... 二六三

全國神社統計 ..... 二六四

全國寺院統計 ..... 二六五

各宗教派の名稱 ..... 二六五

全國植物作付  
反別及收穫高 ..... 二六六

全國耕地自  
作小作區別 ..... 二六八

全國桑畑及茶畑反別 ..... 二六八

官有山林原  
野箇所反別 ..... 二六八

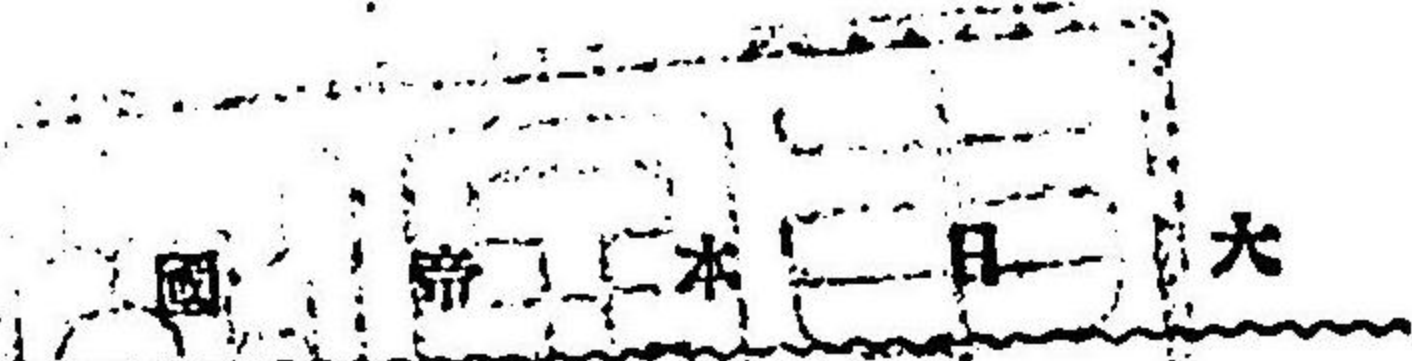
輸出入總額 ..... 二六八

全國問屋、仲買  
及卸賣商統計 ..... 二六九

錦行 日本漫遊案内目次畢

錦行 日本漫遊案内

松本謙堂編



大日本帝國

我日本帝國は亞細亞大洲の東部に位し地形狹長東北より西南に延び大小の島嶼一起一伏其東北端は直に露領「カムチャツカ」に接し其東南は遙に南洋群島に連なる其間斷續起伏極りなしと雖も島嶼相連なり地脈相延きて自ら是れ宛然たる一國を爲せり而して其全面積は大約一萬四千七百九十四方里(臺灣を除く)、邦制上之を分て畿、道、國、郡と爲す又別に政區として廳、府、縣を置き其下に區、市、郡、町、村の區劃あり

畿道國(畿内八道)

畿内... 山城(京都) ●大和(奈良) ●河内(狭山) ●和泉(堺) ●攝津(大坂)

東海道... 伊賀(上野) ●伊勢(津、桑名) ●志摩(鳥羽) ●尾張(名古屋) ●伊豆(蘆山) ●相模(小田原) ●武藏(東京) ●安房(勝山) ●三河(岡崎) ●遠江(濱松) ●駿河(靜岡) ●甲斐(甲府) ●上總(久留里) ●下總(古河) ●千葉 ●常陸(水戸) ●小笠原島

東山道... 近江(大津) ●美濃(岐阜) ●飛騨(高山) ●信濃(松本、長野) ●上野(高崎、前橋) ●下野(宇都宮) ●磐城(平、白河) ●岩代(福島) ●若松 ●陸前(仙臺) ●陸中(盛岡) ●陸奥(弘前) ●羽前(鶴岡、山形、米澤) ●羽後(秋田、酒田)

北陸道... 若狹(小濱) ●越前(福井) ●加賀(金澤) ●能登(七尾) ●越中(富山) ●越後(新潟、長岡) ●佐渡(相川)

山陰道... 丹波(龜山) ●丹後(宮津) ●但馬(出石、豐岡) ●因幡(鳥取) ●伯耆(米子) ●出雲(松江) ●石見(津和野) ●隱岐(西郷)

山陽道... 播磨(姫路) ●美作(津山) ●備前(岡山) ●備中(松江) ●備後(福山) ●安藝(広島) ●周防(山口) ●長門(萩)

南海道... 紀伊(和歌山) ●淡路(須本) ●阿波(徳島) ●讃岐(高松) ●伊豫(松山) ●土佐(高知)

西海道... 筑前(福岡) ●筑後(久留米) ●豊前(小倉) ●豊後(府内) ●肥前(長崎) ●肥後(熊本) ●日向(宮崎) ●大隅(加治木) ●薩摩(鹿兒島) ●壹岐(勝本) ●對馬(嚴原) ●琉球(那覇)

北海道... 渡島(箱館、松前) ●後志(小樽) ●石狩(札幌) ●天鹽(ル、モ) ●釧路(厚岸) ●根室(根室) ●千歳(千歳) ●函館(函館)

廳府縣(一廳、三府)

北海道廳... 北海道

京都府... 山城、丹後、丹波五郡

神奈川縣... 相模、武藏一市六郡

長崎縣... 豐後、對馬、肥前一市六郡

埼玉縣... 武藏十七郡、下總一郡

茨城縣... 常陸、下總六郡

栃木縣... 下野

三重縣... 伊賀、伊勢、志摩、紀伊二郡

静岡縣... 遠江、駿河、伊豆七島(除く)

滋賀縣... 近江

長野縣... 信濃

東京府... 武藏一市六郡、伊豆七島、小笠原島

大阪府... 河内、和泉、攝津一市七郡

兵庫縣... 播磨、但馬、淡路、攝津一市五郡、丹波二郡

新潟縣... 越後、佐渡

千葉縣... 安房、上總、下總八郡

群馬縣... 上野

奈良縣... 大和

愛知縣... 尾張、三河

山梨縣... 甲斐

岐阜縣... 美濃、飛騨

宮城縣... 陸前一市十三郡、磐城三郡

箱館區(北海道) 札幌區(北海道) 東京市(東京府) 京都市(京都府)  
 大阪市(大阪府) 堺市(大阪府) 橫濱市(神奈川縣) 神戶市(兵庫縣)  
 姫路市(兵庫縣) 長崎市(長崎縣) 新潟市(新潟縣) 水戶市(茨城縣)  
 津市(三重縣) 名古屋市(愛知縣) 靜岡市(靜岡縣) 甲府市(山梨縣)  
 岐阜市(岐阜縣) 仙臺市(宮城縣) 盛岡市(岩手縣) 弘前市(青森縣)  
 山形市(山形縣) 米澤市(山形縣) 秋田市(秋田縣) 福井市(福井縣)  
 金澤市(石川縣) 富山市(富山縣) 高岡市(富山縣) 鳥取市(鳥取縣)  
 松江市(島根縣) 岡山市(岡山縣) 廣島市(廣島縣) 赤岡市(山口縣)  
 赤岡市(山口縣) 和歌山市(和歌山縣) 德島市(德島縣) 高松市(香川縣)  
 松山市(愛媛縣) 高知市(高知縣) 福岡市(福岡縣) 久留米市(福岡縣)

市 區 (▲官廳所在地)

沖繩縣...(諸島)

福島縣...(岩代、磐城)  
 青森縣...(陸奥一市八郡)  
 秋田縣...(羽後一市八郡、陸中一郡)  
 石川縣...(加賀、能登)  
 鳥取縣...(因幡、伯耆)  
 岡山縣...(美作、備前、備中)  
 山口縣...(周防、長門)  
 德島縣...(阿波)  
 愛媛縣...(伊豫)  
 福岡縣...(筑前、筑後、豐前六郡)  
 佐賀縣...(肥前一市十郡)  
 宮崎縣...(日向九郡)  
 岩手縣...(陸前一郡、陸中一市十七郡、陸奥一郡)  
 山形縣...(羽前、羽後一郡)  
 福井縣...(若狹、越前)  
 富山縣...(越中)  
 島根縣...(出雲、石見、隱岐)  
 廣島縣...(備後、安藝)  
 和歌山縣...(紀伊一市八郡)  
 香川縣...(讃岐)  
 高知縣...(土佐)  
 大分縣...(豐後、豐前二郡)  
 熊本縣...(肥後)  
 鹿兒島縣...(大隅、薩摩、日向一郡)

佐賀市(佐賀縣)熊本市(熊本縣)宮崎市(宮崎縣)鹿兒島市(鹿兒島縣)  
 埼玉縣廳は武蔵の浦和、千葉縣廳は下總の千葉、群馬縣廳は上野の前橋、栃  
 木縣廳は下野の宇都宮、奈良縣廳は大和の奈良、滋賀縣廳は近江の大津、長  
 野縣廳は信濃の長野、福島縣廳は岩代の福島、青森縣廳は陸奥の青森、島根  
 縣廳は出雲の松江、山口縣廳は周防の山口、大分縣廳は豊後の大分、沖縄縣  
 廳は琉球の那覇に在り。

畿 内

〔位置及疆域〕畿内は全國(本土、四)の中央部に位し東經百三十五度十  
 八分より三十六度二十六分に至り北緯三十三度五十分より三十六度  
 二十六分に至る其地東は東海道及び東山道に接し西は海に瀕し南は  
 南海道に界し西北は山陰、山陽兩道に連る  
 〔地勢及面積〕畿内は東南北の三面山嶽蜿蜒たり就中大和の南部は高  
 山峻岳多し西方の一部は大坂灣を擁して遙に南海道の淡路と相對す

又大和川及び淀川沿岸は其南部に山岳の連れるのみにして概ね平野  
 を爲せり此全面積四百四十五方里餘あり  
 〔山嶽〕愛宕山は山城第一の高山にして高さ二千九百〇四尺國の西北  
 丹波に接する所に聳へ其山嶺に愛宕神社を祀れり比叡山(高二千七百)  
 も亦山城の東北境に峙ちて近江に跨れり大峯(又山上ヶ岳と稱す)は大和  
 に在り金峯、七面、釋迦、國見、大日等の諸山は皆其山脈なり又大  
 壘原山(高四千二)も大和に於ける高山の一とす其他金剛山(高四千)は河  
 内の東南に峙立し槇尾山は和泉に武庫、摩那の諸山は攝津に在り  
 〔河流〕淀川は源を近江の琵琶湖に發し流程十九里二十五町、舟筏の  
 通ずる所十五里餘、此河流は近江に於て瀬多川と稱し山城の宇治に  
 至りて宇治川と稱し淀より下流を淀川と稱す大和川は上流を初瀬川  
 と稱し源を大和の東部に發し和泉攝津を経て大坂灣に注ぐ其流程十

三里許、十津川は源を大和の東南部に發し紀伊に入りて熊野川と稱す其流程二十里餘、吉野川は源を大和の大蓋原山に發し大和の中央部を貫流すること十七里、遂に紀伊に入りて紀ノ川となる其他大和に北山川(流程十)、攝津に武庫川(流程十、等あり)一海岸及港灣、畿内の地たる西方の一部のみ海に瀕するに過さず故に海岸線極めて短く屈折も亦少なし

畿内の港灣は攝津の神戸、大阪、兵庫、の三港及び和泉の堺港なり神戸港は本邦五港(横濱、神戸、長崎、新潟、函館)の一にして港内水深く能く大艦、巨船の投錨に適し大阪港は港内水淺くして大船を碇泊せしむるを得ずと雖も小形漁船、帆船の出入多し兵庫港は神戸港と相接し神戸に亞ぐ良港なり堺港は永祿年間よりの互市場なりと雖も慶應年間之を禁ず而して港内水深からざるを以て僅に帆船の出入するに過ぎず

又大阪灣は和泉兩國の瀕する大灣の總稱なり

岬角及海峽、和田岬は攝津に在り神戸港の港口を扼し和泉の觀音崎と相對して大阪灣を爲す又和泉に黑崎と稱する岬角あり、畿内の海峽は内海と大阪灣との境界を爲せる須磨海峽(又明石海峽)あるのみ

湖沼、畿内に於ける湖沼の數少なからずと雖も其大なるものは山城の巨椋池(周回四里)、納所池(周回二)、六地藏沼(周回三)、河内の狹山池等なり此巨椋池は豐臣秀吉が宇治の水害を防んが爲め鑿らたるものにして狹山池は崇神天皇の朝、灌漑に便せんが爲めに設けたるものなりと云ふ

瀑布、畿内の瀑布甚だ多きも今其著名なるものを舉れば山城の明神大瀑、大和の中ノ瀑、攝津の布引瀑等なり明神大瀑は伊賀の上野川山城の大河原に來りて高さ百五十丈餘の瀑布を爲し名張川に會し木



津川と爲る中ノ瀑は大臺原山に在り高さ百五十丈、幅十五間餘、布引瀑は、武庫山麓に在り其高さ二十三丈、幅二間餘あり

〔温泉〕攝津に有馬、平野の兩温泉あり有馬は往昔舒明、聖武二帝の行幸ありし温泉にして爾來其名聲天下に高し其他大和に東泉寺温泉

あり山城に天龍寺、嵐山等の温泉あり皆有功なるを以て其名著はる〔都邑〕京都市は山城の中央部に位し鴨川其東方を貫流し市街井然砥

の如し其地今を距る一千一百年前即ち桓武天皇延暦十二年に皇都を茲に奠め平安城と稱せられしなり爾來明治元年までの皇都たり現今

の京都是東西凡そ二里、南北凡そ一里十八町餘、戸數六萬五千九百七十一、現住人口三十萬八千二百六十六あり之を上下の兩京に別ち

三條通以北を上京區と稱し三條通以南を下京區と稱す目今京都府廳の所在地にして市街繁盛實に西京の名に背かざるなり特に名所舊蹟

の多き美術工藝の技に長ずるは他方の及ぶ所に非ず而して市の南端に東海道鐵道線の横はるあり京都伏見間に通ずる瀧車の南に向て走

るあり其停車場は七條烏丸通に設けられ此より下車せば電瀧車の便利ありて五條、松原、四條三條二條に至り是より東は南禪寺及び疎

水運河に達し西は下立賣通の堀川に通じ尙は鐵路の延長は進んで西北端に達するを得べし此地の名所舊蹟中其重なるもの多きを擧れば

則ち京都御所、二條離宮、三十三間堂、大佛、智恩院、八阪神社、東大谷、清水寺、西大谷、南禪寺、疎水運河、平安神宮、大極殿、

銀閣寺、下加茂、上加茂、金閣寺、北野神社、嵐山、西本願寺、東本願寺等にして其他數百の神社佛閣は實に枚擧する能はず遊覽の最

も價値ある所なり旅舎は也阿彌樓、左阿彌樓、京都ホテル、俵屋、終屋、澤文、松吉、若彦、萬屋等を始めとし有名なるもの廿餘あり

終屋、澤文、松吉、若彦、萬屋等を始めとし有名なるもの廿餘あり

●伏見は山城の名邑にして京都を距る二里半の南に在り此地京阪間の要路に當り京都よりは高瀬川及び疏水運河の通ずるあり其他汽車及電氣車等の往復頻繁なり而して淀川には大阪間を航行する汽船ありて市街頗る殷賑山城第二の都會なり

●淀も亦山城の名邑にして稻葉氏の舊城下なり彼の有名なる淀城は荒廢に屬せしも今尙ほ其舊趾を存せり又淀姫神社は淀の水垂と稱する所に在り

●大阪市は本邦第二の都市にして商工業の繁盛なること全國に冠たり其地浪速或は難波と稱し仁徳天皇都を高津宮に奠め給ひ後ち孝徳天皇も亦長柄豊崎に都し給ひたることありしが天正年間豊太閤石山に居城(大坂)を築き大に形勢を變じ處々に溝渠を開鑿し運輸を便にせしより遂に今日の繁榮を呈するに至れり其廣袤東西一里十四町、南

北二里十二町、戸數九萬三千五百五十四、現住人口四十七萬九千五百四十六、一戸の平均人口五人二三に該當す而して大阪府全管内(河内、和泉、攝津一市七郡)の現住戸數二十六萬二千七百八十七、現住人口百三十

七萬〇二百三十二、平均一方里の人口一萬千八百四十一、一戸平均人口五人二一なり此地市街には高樓大廈碧瓦鱗次し安治川及び木津川の港口には帆檣常に林立し漁船帆船の一去一來するもの日に其幾百なるを知る可からず實に全國商工業の中心にして熱鬧繁榮の地なりとす而して市の東に第四師團司令部、砲兵工廠、西に大阪府廳、北に造幣局、大阪控訴院、地方裁判所及び郵便電信局等、官衙の重なるものあり其他博物館、商業俱樂部、學校病院、商品陳列所、商業會議所、米商會所、株式取引所、電話交換所、銀行諸會社あり市街には各戸に水道を通し電燈を照し鐵道は東海道鐵道あり、京神間

を往来し其停車場は西成郡曾根崎村の梅田にあり又堺市に至る阪堺  
 鐵道より大和の奈良及び櫻井に達し湊町より梅田に達する大阪鐵道  
 あり片町より河内の四條畷に通し北濱町より北條に達する浪速鐵道  
 のり實に四通八達の要地なるは論を俟たず大阪城趾、生魂神社、天  
 滿天神、櫻ノ宮等を始とし四方遊覽すべき所多し市内旅舎の重なる  
 ものは自由亭、花屋、專崎、花房、川口屋、松卯、花外樓、多景色  
 樓、紫雲樓、岸澤、松塚、加賀屋、國元、北川、淡路屋等を始とし  
 有名なるもの三十餘戸、其他普通の旅舎は千を以て數ふべし

●市内幾多の公私立病院あれども就中左に掲ぐるを其の最たる者と  
 す記者は今左に其梗概を記して沉く大方病客の治を求むる者の東進  
 たらんとす讀む人幸に其心して留意注目せられんとを望む

第壹小笠原院

は大阪市東區今橋一丁目所謂北船場の中央に位し比隣富豪を併べ  
 街衢繁榮を極む其屋舎の構造の如きは元と普通民屋を改造せし者故  
 に事の記すべきなしと雖ども各室結構の宏大華麗並各般準備の整頓  
 せるとは實に府下幾多病院の企及すべからざる者とす院内二ヶ  
 所の診察場、二ヶ所の手術場、婦人科、内診室、藥局、製練室、二  
 ケ所の應接場、事務室、消毒室、當直室、屍室等を備へ病床凡て  
 百餘にして各室悉く可及的の患者慰樂の裝置を設け加之庭園の古雅  
 なるありて是に來れる病客をして其身の病床に在るを忘れて轉た仙  
 境に在るかの如く思はしむ讀者幸に前出せし圖に就て見れば蓋し思  
 半ばに過ぐる者あらん而して八方の病客は或は瀛車或は瀛船の便を  
 籍りて容易に到るを得べし今や大阪の地鐵路の計劃十百のみにあ  
 らず蓋し後年敷設し了るの日は其至便當に今日の比に非ざるべし左

に既設停車場等より同院に至るの人力車賃を掲げん

官線梅田停車場より	同院迄	金 五 銭
大阪鐵道線湊町停車場より	同院迄	金 七 銭
同 天王寺同より	同院迄	金 十 銭
同 玉 造同より	同院迄	金 七 銭
同 京 橋同より	同院迄	金 五 銭
阪堺鐵道線路灘波同より	同院迄	金 七 銭
浪花鐵道線片町同より	同院迄	金 五 銭
川口波止場より	同院迄	金 七 銭
淀川瀛船八軒屋停車場より	同院迄	金 一 銭
八軒屋よりは僅かに一二町の隔たりあるのみなれば歩みて至るを得べし		

世人多くは誤り認めて同院を皮膚病科専門の如く思惟すれども決して然るに非ず實に同院は府下有數の分科病院にして院主兼院長小笠原大成氏皮膚病科を擔任せらるゝが故にしか思ふ者にして他の内科、眼科、婦人科等皆各専門の大家其治療に従事せらるる左に同院諸

般の制度並現況の大略を述べん

一 診察料 是初診察料金卅錢にして再診料金貳拾五錢なり皮膚病科に在ては診察の度數に不拘一週日間の有効なれども他の諸科は皆七回の有効とす

一 入院料 是最低一日分金廿錢より金壹圓五拾錢迄にして之を六等に分つ各科皆然り入院證書用紙は同院より交附せらる

一 薬價 是最低一日分金四錢より以上種々あり何れも原價に應じて精算す

一 皮膚病科 是院長小笠原大成氏の専門にして特に雷名を天下に轟せる者なり凡そ世間醫の多き藥物の夥き實に枚舉に違わらずしかも能く此藥物を各病に適應せしめ以て各般の疾病をして手中の珠と容易に治せしむるの術を有するの醫に至ては誠に曉天晨

星も曇ならずとす氏は實に此欠點を避けて圓滿なる療法を各病の各種に有せり以故一病を診して而かも絶て適應せる藥劑なき事わらず是れ則ち氏が治療の特色にして凡そ病床に臨んで一顧の思ひを廻すなく容易に之を治せしむる者實に此各症に適應せる藥劑の發見せるが故なるなり事斯の如し豈に安んず之を一朝一夕に得たるの智識と謂はんや又以て其老練の程度を知るに足る而して此法を用ひて治療し得る處の者は●いんさん●たむし●なまづ●はたけ●かゆがり●にきび●ひぜん●がんがさ●わさが●毛のぬける病●そばかす●ほろせ●しらくも●とびひ●くさ●ひげくさ●水くさ●ざくろ鼻●みとずばれ●あぶら手●あぶら足●ねぶと●うをのめ●毛じらみ●りん病●せうから●梅毒●髪●病●爪の病等其の他皮膚病一切にして此難症を備々一二週間にて全治せしむるの技能に至ては一と庶氏の治療を受けたる者の敬服して措かざる所とす氏又一大難症たるらい病をして治癒せしむるの技能を有せり氏の病を治するや元と適當なる藥劑の發見あるが故なる事言を待たざれども又氏の熱心と誠實とは實に此難症を治せしむるの神藥たるに適合する者なり氏が病者に接する事の親切熱心なる實に父母の赤子に於けるが如き事一度之を觀たる者の知る所是を見ても此病の治する事の疑ふへきに非ざるを知るなり以是夫の世の治癒者が躊躇して治を言ざる者迄も尙能く治せしむるの技能を有せり誠や院内常に此病者の幾百を以て算へらるることや氏尙之を以て慊たれりとせず今第二病院を設立し其第二部と連絡して愈此救濟事業を擴張せらるること云實に氏ありて我邦癩病熄滅に就くの日わりと可謂矣此皮膚病科のみ當時京都市下京區東洞院通

しむるの技能に至ては一と庶氏の治療を受けたる者の敬服して措かざる所とす氏又一大難症たるらい病をして治癒せしむるの技能を有せり氏の病を治するや元と適當なる藥劑の發見あるが故なる事言を待たざれども又氏の熱心と誠實とは實に此難症を治せしむるの神藥たるに適合する者なり氏が病者に接する事の親切熱心なる實に父母の赤子に於けるが如き事一度之を觀たる者の知る所是を見ても此病の治する事の疑ふへきに非ざるを知るなり以是夫の世の治癒者が躊躇して治を言ざる者迄も尙能く治せしむるの技能を有せり誠や院内常に此病者の幾百を以て算へらるることや氏尙之を以て慊たれりとせず今第二病院を設立し其第二部と連絡して愈此救濟事業を擴張せらるること云實に氏ありて我邦癩病熄滅に就くの日わりと可謂矣此皮膚病科のみ當時京都市下京區東洞院通

四條上る阪東屋町に出張所を設け毎一六の日午後を以て院長出張して診療に従事せらる就て其治療の厚さに浴すへきなり

一内科 に於てははい●ちやう●かん●ひ●のう●しんけい、  
其他むね●はら●の病一切並各種の傳染病を治療す

一眼科 に於ては眼に關する一切の病を治療す

一婦人科 に於ては陰部●子宮●乳房其他婦人に關する病一切

妊娠出産前後の處置を施し並産婦の入院分娩を許す

一第一病院青色診察券制 大阪の地商工の家軒を併べ各繁盛を

極む以是毎戸雇ふ所の人實に一二にして止まらず其總數を合せば  
幾萬の多さに上るや必せり而して一朝此人等の病に當てや其雇  
主たる者の之を遇する又決して親者の病を遇するも同一ならざる  
べきは蓋し勢の然らしむる所なるべし院長茲に見る處あり則ち時

に此制を設け診察を無料とし其他費用を低減し且つ入院手續を簡

にし以て一面雇人をして其病むの日に當りて心を安くして療病せ

しめ主恩の厚さを記し以て他日の忠勤を思はしめ一面には雇主を

して幾多雇人の疾病の介抱の面倒なからしめ雇人をして雇主不遇

の怨言なからしめんとする一舉兩得の策なり世雇主雇人たる者以

て其利益を享くべきなり

驍將の下に弱卒なし院長の技能前陳するが如し他科の主任醫豈に平  
々凡々の徒ならんや各醫等夙に醫學の根底を極め長く實地の練習を  
積み加ふるに皆一種の俠骨を有し親切丁寧なり以故其治療熟達精  
妙臨機應變危機に際して確乎不動大盤石も管ならず其他看護婦の親  
切慈愛心に富める病室裝飾の悉く慰樂的なる庭園の壯快なる皆心  
耳を歡ばしめ一として疾病治療の助けならざるはなし以是病客常に

門に滿ち病室虚時なく常に欠乏を訴へ偶遠來未知の患者をして往々失望せしめ各醫亦其全力を盡し難きの憾みあり今や其餘力遂に發して則ち後來述ぶる所の第二病院となる又自然の理のみ嗚呼盛哉

第二小笠原病院

は府下東成郡天王寺並生野の兩村に跨りて位し廣袤凡そ壹萬餘坪實に全國私立病院の冠たる者なり其地は桃山の連續にして高燥に其建造物は所謂野中の一軒家にして四圍敷町を隔て漸く稀に人家を見るのみ以是空氣極めて清純なり西は數百歩を隔て四天王寺に相對し高く有名なる五重塔を仰ぐ北は桃山に接し東南二方は遙に志貴、葛城、二子金剛等の諸山に臨む眺望絶佳加ふるに域内庭園他に比類なく或は高く山を築きて幾多の樹木を植へ細流其間を流れ或は深く池を穿ちて中に大小の魚類を放ち其潑測として跳るや人をして神爽

かに氣清からしむる者あり或は噴水高く騰りて餘沫の日光に映じて虹彩を見はせる或は瀑水の落下し來りて水波迸り清風爲めに起り不思人をして壯快を呼ばしむるあり其他庭園或は桃李の林を作り或は楓櫨の森を作り以て病者慰樂の用に供す若し夫れ冬期白雪降り積りて白玉を連ね白麩を布ぶるかど疑はるゝ時春暖陽氣盛に櫻花の白き桃花の紅き麥圃の青き菜花の黄なる此天地をして五色に彩どるかど疑はしむるの時夏日三伏銷金の暑さに當り一介の團扇を要せず涼風吹き來りて身神自から爽かに夫の身軀の焦くるかと苦めるの人を疑はしむる時秋冷を催し農家收穫匆忙を極むる恰も一枚の畫圖を展べたらんが如き時に於ては如何に執拗なる疾病も安んを能く其威を逞ふすべけんや加ふるに四隣寂として容易に人聲を聞かず誠に一個仙境にして眞個療病の好地なるのみならず無病の人亦來て其健康

を増すとを得べきをや院の西隣に大阪鐵道城東線通じ其北僅かに二丁にして桃山停車場へ達するを得べし其南西六七町に天王寺停車場あり以是地市中を距ると雖ども交通極めて便にして滋養物運送並に患者の交通に不便を感じることなし世の病を此地に養ひ或は來り診を請はんとする者は其何れよりするにも不拘大鐵道城東線中桃山停車場に下車するを至便とす川口波止場よりは人力車賃十五錢を要すべし

而して同院は純然たる進歩的分科病院にして各科専門の大家皆其治療に従事せられ院主兼院長は小笠原大成氏なり所在の地元と田圃にして明治廿八年一月より土地買収に着手し同年四月土工に着手し同年八月起工越て廿九年三月に至り其主要なる建築を終り四月一日開院せられ其後引續き殘餘の建築に従事せられ今同院の部別に從ひ順

次其制度並 現 況の梗概を述べん

第一部 本部に於ては一般療病の事を司ぐる夫れ空氣の清潔土地の高燥等が如何に疾病療養に裨益を興ふるやは今更余輩の多辨をまたず抑も都會の地たる人煙稠密從て空氣の不純を來し或は土地の低濕なる爲めに種々の疾病を誘起し來り如何なる名醫の存するあるも之を如何ともすると不能や明かなり是れ院を此風景絶佳高燥清純にしかも交通至便の地を撰みて設くる所以世の病者就て療養の地と爲さば豈啻に治癒の期を早むるのみと謂はんや況はんや醫士皆其適任を得完全無欠實に一點の欠漏なきに於てみや乞左の記事を讀んで余輩の言の過賞溢美にあらざるを知られよ

一 診察料 是外科、内科、婦人科、産科、脚氣科は初診料金三

拾錢再診料金二十五錢にして七回の有効とし眼科は其料同一なれ



とも廿回有効とす精神病科、傳染病科は初診料五拾錢再診料四拾錢にして各一回有効とす

一入院料 各科何れも第一病院と同じ入院證書用紙は同く同院より交附せらる

一外科 うちみ、きりきづ、すりむき傷、だつそ、いぼち、あなち、だつこう、にく又ははねのくさり、こぶ、よう、ちやう、るちゆ、はねのぬけ、はねのをれ、すじのちがい、さかゆび、種々の性悪き腫れ物、へうそ、等其他種々の外科的の病、のんどの痛み腫れ、のんどのでさきもの、のんどのくされ、こぼのかれ、みだれ、みまのうづきいたみ、みまのしゆもつ、みまのうなり、みまのとうき、つんば、はなたけ、はなのいたみ、はなのくさき病等凡て耳鼻咽喉の病一切むしば、はいたみ、をにば、はぐさの

はれいたみ又はうみのでる病等一切の病たむし、なまづ、わきが、りん病、せうかち、かんそ、よこね、はねうづき等皮膚病梅毒に屬する病一切並はなかけ、へかこ、皮かむり、ひきつり、すぐら、はげ其他百般外科成形に屬する治療を施す

一内科 はい癩、さくわんのやまひ、ぜんそく、其他たんせき一切の病、しんぞうの病、一切の病、しやつき、かく、ぬがん、はらくだり、はらいたみ其他胃腸病一切、ふうだん、ちやうまん、肝臓一切の病、づこう、のぼせ、てんかん、ちゆうぶ、所々のしびれ、きやふう、ひきつけ、腦脊髓一切の病、ふしぶしのはれいたみ、すじのはれいたみ、りやうまちす、並はれやまい等運動機腎臟等の病凡て此等内科的の病を治療す

一眼科 のぼせめ、はやりめ、くろそこひ、しろそこひ、やぶ

にらみ、あさめくら、めくら、ほし、等を治療し其他ほしづめ、  
義眼、等修飾的治療を施す

一 婦嬰科産科

しらち、ながち、ちの道、こしのはりいたみ、  
不めくり、あなとし、子宮のまがり、又は下り、子宮並腔のでき  
もの一切、ちやうまん、下腹のかたまり、こしけ、其他婦人さや  
まい、ひかん等婦人病一切、にんしん、つわり、産前産後の病一切  
なんさん等産に關する病一切、百日せき、たん、せき、ひきつけ、  
さやうふう、小便たれ、はらくたり、はらいたみ等小兒の病一切  
其他婦、嬰、産に關する疾病を治療す其他産婦の入院分娩を處置  
す

一 脚氣科

脚氣に練熟せる醫長が好地を利用して適切なる治療  
を脚氣に施す

一 精神病科

氣の狂ひ一切の病を治療し並其鑑定の需めに應ず

一 傳染病科

赤痢、腸窒扶私、實扶帝里、急性肺炎、丹毒、肺

癆、流行性感胃、其他傳染病一切を治療す

本科の附屬として平時並に流行の時に種痘を施す

一 青色診察券制

第一病院同一の趣旨の他に普通定則藥價等の

負擔に耐へられざる者の爲めに同一の制度の下に本券を出す

一 救療制

無告の窮民を救濟せん博愛的趣旨により本制を設け

特別制の下に之を支配す

而して其治療の巧拙如何は今之を再說せずと雖も要するに其治療

悉く新式を撰み而かも決して早計に走らず外科、産科、婦人科、

並眼科等に於ける外科的手術の如き皆最新防腐法原則に従ひ内科的

諸病亦日新の説に由りに之に醫長老練の手腕を以て治療を施す殊に

脚氣の如き已に院の所在地が好轉地療養地なるを前條述ぶるが如きに加ふるに其治療の巧妙あり絶て他の企及すべからざる者どす肺病氣管支病の如きに對して此般の土地の特効あるを今更述ぶるの要なし將た又精神病が閑靜清純地を好むに此地他に比なきに於てかや且傳染病に至ては殊に最近細菌學の進歩により其療法一大變革を來せしが同醫長又率先研究の餘慶により此法によりて最も進歩せる治療を施さるゝ等少しく誇るに足るとは下章掲ぐる装置により其一端を察せられよ

一 診察室 四個の診察室を備へ以て各科の専門診察に備ふ各室皆診察に關する器械を具備し一も欠くる所なし又各科に従ひ暗室、内診室、等を附屬せり

一 患者浴室 各診察室に附屬せり

一 手術室 三個の普通手術室と一個の防腐的手術室を有す此室には暖室に兼ねて每一時室内空氣を二回づゝ交換し得るの装置を有せり是等は實に我邦屈指の手術室なり之に浴室並患者浴り室を附せり(圖參照)

一 藥劑室 あらゆる藥劑、あらゆる調劑製劑の要具を備へ以て藥局の大任を明らかにす是等を取扱ふ處の調劑師皆熟練精達優に各科醫長の力量に顔顔するに足る

一 製練室 諸種藥劑を製練する所にして諸般の準備皆足る  
一 顯微鏡並理化學検査室 精良なる顯微鏡其他一切理化學的器械を備へ診断の助けとなし學術研究の資料に供す

一 消毒室 諸般の綑帶材料有毒品等を消毒する所にして之に要する諸器具を完備す

一 事務室 院内諸般の事務を取扱ふ所とす  
 一 標本室 各種の衛生藥物解剖等に関する標本を陳列し以て参考の一助となす

一 書籍室 醫學に関する圖書患者看護婦に用ゆべき圖書を具ふ此室より院内病室附屬書籍室の圖書を分置する者とす

一 會議室 院内諸員の集會席に充つ結構壯麗大さ凡百餘疊

一 應接室 第一第二の兩室を備へ内部裝飾華美を盡し燃然目も眩ゆき許なり

一 院長室 院長事務を執る所とす

一 醫員室 其他醫員の事務を執る所とす

一 解剖室 屍体の全軀或は局部解剖をなし諸般學術研究の助けとなす所とす

一 屍体室 屍体を藏る所とす

一 「パヴリオリ」式孤立病室 廣大なる庭園の内に孤立せられたる

小亭風の病室にして則ち四方に庭園を有する者なり本室は特に外來の喧騒を避けんが爲めに設けられたる者にして其必要ある患者を容るゝ所とす其裝飾の完美言を須たず(圖參照)

一 普通病室 各室書畫の額幅を掲げ或は四季の草花を挿し以て患者慰樂の用に供す之に附屬して

一 遊戯室並書籍室の設けあり室内諸種の樂器將碁盤、碁盤、玉突、棍棒、球桿等あらゆる遊戯運動の器具を備へ尙他に數多の慰安的圖書を陳列し患者をして之に由て安らかに其病を養はしめ以て此治療の助けとなさしむ全國病院多しと雖も如此備ふる者極めて稀れなるべし聊か世に誇るに足らんか(圖參照)

一 精神病室 各症に適せる病室を備へ並之に對する遊戯室及之に  
附屬せる樂器等諸種の遊戯物並運動場を備ふ

一 傳染病室 特に分棟して建設し時宜により之を燒棄するも差支  
へなき様準備せり

一 浴室 諸種の藥物浴並電氣浴等あらゆる浴の裝置をなす

一 藥草園 諸般の藥草を培植す殊に新鮮にして年月を経るを許さ  
ざる者は特に多數に栽培せり

一 庭園 丘陵伏起し其間清水の流るゝあり松柏林をなし中に小禽  
の戯むるあり一條の瀑水轟として落射し忽ち岩石を打ち迸として  
四散し水煙則ち起り以て七種の色彩を見はすあり噴水昇りて絶  
へず時に銀桿を立てたるかと怪しまるゝあり池水波穩かにして時  
に境内の全景を倒映するの鏡かと疑はる若し夫れ梅花櫻柳郁鬱花爛

漫の候に至ては其景色得て筆すべからずとす誰か院舎内地獄的  
務繁忙の傍らに此庭園極樂的幽靜あることを知らんや是等と相并  
びて(圖參照)

一 運動場 あり地域廣大全面芝を以て被ひ患者運動の用に供す其  
一隅に懸搖器等の裝置をなす

其他賄室、食堂、當直室、納屋、倉庫、等種々の建物あれども皆  
略に従ふ

第二部 本部に於ては第一小笠原病院皮膚病科と連絡して癩病治  
療を専務とす凡世間醜さ者忌まる者其數多しと雖も癩病程甚さ者  
はあらじ以是一度之を病ひや世の人指彈して擯斥し敢て交りをなさ  
ず己れ亦一身を世外の者となし敢て一事を爲さんとはせず碌々とし  
て遂に路傍の露と消ゆる者多し悲むべきに非ずや而して我邦は多癩

國の名ある丈に此病者の存ずると實に多く一郡一村として其是れなきはなきが如し抑も往者は世人の此病者を忌むこと甚だ深く病者亦之を耻づること之に準し敢て白晝公行して忌憚なきことなかりしと雖も今や人事の繁雜により世人の注目漸く緩かなると共に是等病者は遠慮なくも白晝公行して憚らず加之其妙齡に達せば或は嫁さ或は娶り其病兒を産し敢て此病蔓延するを慮らず益横暴を極む既往同院の事歴に徴するに是等病者中既婚者が有する所の兒は實に平均三人を下ざる事確實なりとす然らば今より幾年の後に於て如何に癩病者の多數を發生するやは推に難からざるべし而して此病者は田舎村落に在りては如何にも目立ちて友はらざるに至ること多きも尙交通の繁を免れず然るに若し都會繁盛の地に在りて人の注目漸く疎きを利し日夕我隣家へ癩病者の來り住し又共に同居せんとする者あるに至る恐るべきにあらざるや然れども世人或は謂はん癩病の醜吾人共に之を知る焉んぞ避けて避けられざることあらんやと勿謂我是を聞く此病は決して一概に醜惡の態を見はす者に非ず或る病種に至ては及或る程度に至る迄は實に一見健康なる常人と異ならずと既往に徴するも是等儕輩の敢て人目にふれるなきを利して雇はれて衝に當り幾十人の飲食を取扱へる者其類例に乏しからずと其之を雇へる主たる者能く之を鑑別するの明ありや否や我邦の同病は其傳染性弱きと雖も斯く日夕其居を同ふし其飲食を共にせば何れの日何れの時か敢て傳染することなきを保すことを得べけんや世人徒に赤痢虎列拉の可恐を知りて癩病の可恐を不知此命の旦夕に限り或は生死共に一代限りなる赤痢虎列拉を恐れて一度患ふるや子々孫々尙忌まれて飽くなき此の癩病を看過する事の急慢如何に人心感動に相違ありと

に至る恐るべきにあらざるや然れども世人或は謂はん癩病の醜吾人共に之を知る焉んぞ避けて避けられざることあらんやと勿謂我是を聞く此病は決して一概に醜惡の態を見はす者に非ず或る病種に至ては及或る程度に至る迄は實に一見健康なる常人と異ならずと既往に徴するも是等儕輩の敢て人目にふれるなきを利して雇はれて衝に當り幾十人の飲食を取扱へる者其類例に乏しからずと其之を雇へる主たる者能く之を鑑別するの明ありや否や我邦の同病は其傳染性弱きと雖も斯く日夕其居を同ふし其飲食を共にせば何れの日何れの時か敢て傳染することなきを保すことを得べけんや世人徒に赤痢虎列拉の可恐を知りて癩病の可恐を不知此命の旦夕に限り或は生死共に一代限りなる赤痢虎列拉を恐れて一度患ふるや子々孫々尙忌まれて飽くなき此の癩病を看過する事の急慢如何に人心感動に相違ありと

するも凡そ目前に走る人等の理に暗き豈に可驚に非ずや夫れ如此忌  
 ひべきの病にして如斯遺傳し而かも傳染性を帯ぶるの病たり是故に  
 此病ある人並此病ある者あるを知る人は速に之が適當の醫治を受  
 け又は之を受けしめて我邦一の癩病者なきに至らしめ則ち現時歐洲  
 諸國に於けるが如く所謂全滅の効を奏さしめざるべからず然らざれ  
 ば遂に諸氏は一日とて枕を高くして眠ること不能に至るべし昔者歐  
 州諸國に於て此病猖獗を逞するや政府嚴に此法律を設け或は白衣を  
 着せて常人と近接するなからしめ或は出るに鐘を叩たかしめ以て之  
 を別異にす或は癩病院を設けて之を收容し成は一孤島に流竄して其  
 餘孽なからしめ幸に今日の全滅を來せり近時西歐洲に於て僅に三百  
 名の同病者を發生せりとて之が撲滅策に餘念なしと聞くさへあるに  
 我但馬の某村に於ては二百數十人の村民舉て此病を有し或は熊本某

社の附近人か鬼かと判別すべからざる者幾百の多數に存するあるを  
 聞くだに酸鼻に耐へざる事實の明白なるあるにも不拘世人は恬とし  
 て敢て之を救はんどもせず當路者亦更に與り知らざる者の如し何ぞ  
 夫れ冷淡なるや院長茲に見る所あり夙に斯病の撲滅者を以て自任し  
 況く此病者を治療す而して今日に至る迄其治を得て喜ぶ所の者其數  
 又少しとせず而して從來の經驗に徴するに本病たるや古來不治の症  
 と稱せし程ありて其治療の特異なる丈け之に要する費用又尋常の比  
 に非ず將た又僅かに一二週の短時日を以て治し得べきに非ず從て  
 其費を要すること多く偶 其治療に 志す者あるも其費の負擔に不  
 堪中止するの不得止者少なからず以故院長が是等病者を無料救濟せ  
 んとを計るや一日にわらず然らば直ちに是等の病者を一の報酬なく  
 して治療すべきか然れども病者の無數なる資力に限りある安んず其

一日を全ふするも其二日を完ふするを得べけんや於是乎案出せる所の一法あり何ぞや曰く授金救済法是れなり請ふ其方策の大略を左に述べん

一大則 患者自己の職業に従ひ或は其疾病の輕重に従ひ或は時の寒暖に従ひ種々職業を取らしめ之によりて得たる所の賃錢並其製品の賣却に依て得たる純益を以て所要の治療費の一部に供せしむるに在り

一作業の種類 ○機業 木綿糸等を機織す○陶工○竹細工○麥藁細工○活版印刷○農作○牧畜○其他百般の職業等 患者をして悉く皆斯くの如くならしむるに非ず其費に耐ふる者は固より疾病重くして是等何等の業にも就く不能者は無論普通の取扱をなす者とす而して之に要する建物左に

一病室 普通慰樂的装置を整ふると第一部に同じ

一遊戯室 第一部と同一の装置をなす

一書籍室 患者に要する圖書を備ふ

一湯浴場 藥物浴となし特に本部の爲めに設く(圖参照)

一作業室 上述の作業をなす所とす

一事務室 各般第二部に關する事務並作業品販賣等に關する事務を取扱ふ

一診察室並手術室 第二部患者を取扱ふ所とす

一蒸氣消毒室 作業品並其他物品を消毒する所とす

一賭場、納屋、庭園、運動場各部は別異にして之を設く

患者の製作品を販賣するは病毒を傳播するの恐ありとする輩は右記の装置を見て自説の杞憂に屬するを知らるべし又病者授産に就きて



種々の異論を稱ふる輩、あるも要するに之を定業とせざる職工を遇するが如くならざるが故に其病疾並治療に於て更に障害を見ざる者なると經驗の教ふる所なりとす院長の如きは群議を排して其後他の慢性諸病にも出來得べき丈の職業を授けて汎く病者救済の實を擧げんとすと云加之本部の如きは如斯くにして進み遂に良好の方策を案出し以て他日を期して其素志たる無料救済を實行せんとすと云其勢可知也矣而して本部授産の狀況並治療の如何の如き今之を細説するを要せず世の之を患ひ又之あるを知れる人は速かに就て其恩に浴すべしなり

第三部 醫學に關する諸般研學の事を司ぐる其細目左に

一大成醫藥學校 今の醫を養成する所の者多くは皆外觀の形式に走り絶て實用の如何を不問其教ふる所の科目並事實の如き一として賢

際に臨て用ゆるに足る者なし以是一度學校を辭するも更に此欠點の爲めに永年の浮浪の生活を取ざるべからざる己ひを得ざるに至らしむ國家生産の爲め將た己人利益の爲め愛ふべきに非すや院に從事する醫藥士は茲に見る所あり奮勵一番其餘暇を以て己往既に經歷する所に顧み先づ今日醫藥士養成の欠點たる精神的涵養を力め次に適切の學科を撰み且つ實地開業に臨みて必要なる事項を教授し他日世に立て耻づるなき有力なる輩を養成せんとを期す

一看護婦並産婆養成所 病むに當て醫の任や重し然れども之と共に一層の重責ある者を看護婦となし百般の病看護の巧拙如何に依り其治否を決する者なると今や萬人の認むる所となる於是乎看護婦四方に群起す然れども之等の輩は皆糊口に窮するの徒が一時の流行を機とし直に一時的速成教育を受け僅かに一二の藥名を記し一二繻帶

の用法を開きて直ちに看護婦と自稱せる者にして眞に看護其者の眞味を了せざる者とす以是用に臨みて更に何の益するなく反て纏頭の多少を以て其取扱を厚薄にし或は傲然醫士を膝下に敷き敢て其命を守らざる者皆然り若し此儘にして進むらば其弊の及所計られざらんとす本所は此弊を矯め眞正看護婦を養成する所とす又醫は司命の官なり其責重しとすれば醫に先んじて人命を暗黒裡に司どり其處置の如何により一時に兩個生命の安危を決する産婆なる者が責の醫よりも重きは確乎たる事實なりとす然るに我邦古來の陋習により世人の彼を輕視すると甚だ敷彼亦之に甘んじて今日の産婆なる者其多くは實際に臨んで用ゆるに所なく偶其技を揮ふあらば皆正鵠を失し事の實際を知れる者をして安んじて身を委託する不能し悲むべきに非ずや今や院務餘暇欲するが如き産婆を養成す

一 病源研究所 現今に於けるあらゆる智識の程度により各種病源を

研究する所とす

一 大成醫藥學會 此會は開業醫並實地診察に従事する學生を以て組

織し或は各自の實驗説を吐き或は高等なる専門醫藥學を講授し以て

日新醫學を研究する者とす本會は其機關として大成醫藥學會雜誌を

刊行し況く會員並公衆に頒つ

一 衛生説話會 平時並流行病時に於て定時或は臨時に全國諸所に本

會を開設し多數の民人を集め或は幻燈を利用し或は説話を用ゐる或は

印刷物を配布し以て民人の衛生思想を煥發するの機關とす

第四部 學術を應用して施設する所の諸般の事業を司とる

一 泰俊文庫 幾多醫學に關する圖書は勿論其他百科の書を集め以て

一には第三部に於ける學生の參考に供し一には公衆の縦覽に供す

一救急隊 其一隊は醫士助手兼調劑手並看護婦各一名より成り各隊皆一個の救急行囊を有し中に藥品器械の要部を收め其或る一部の隊には皆天幕を携へしめ以て露天に勤むるに便ならしむ此一隊或は數隊は其旨趣如何により無報酬又は相當の報酬を受けて集會宴席其他危急の場合に際し招聘に應じて出張し以て救急の任務を盡すに在り其非常に際しては院員全体を擧げて之を編成し以て幾干の本隊を作るとを得此旨趣の世に熟知せらるゝ迄は其盛大を期すべからざるも之を創制せし効に至ては世に誇るに足るなり

人或は本隊の必要を疑はん試みに見よ各種祭典法會集會等多人數集合するに當り或は往來の雜閑等に當り或は美酒佳肴盛に宴を張り歡聲湧くか如きの時に當り中に一人の病むありとせんか各人皆其舉措を失し「それ水よそれ藥を或は醫士よ」と倉皇狼狽曾ならず歡聲は悲

鳴と變じ美酒美ならず佳肴佳ならず壯觀亦壯ならず此際に當て之に主たる者少しも其責なしとするか抑も人間の常なき此歡聲裡必ず病なきとを保すべけんや此時に當り豫め之が準備をなし以て不時の變に備ふるは此等に主たる者の義務義務にして此準備が病む人並其他に向て幾多山海の珍味よりも幾多の壯觀よりも價値あるとは實際に當れる諸氏の熟知せらるゝ所ならん本隊は此欠點を補はんが爲めに來れる者にして則ち招待に應じて此等に臨み以て其義務を果す者とす元とより如何なる大宴に在つても茶菓の他の饗應を受くることなし是れ其趣旨の一となす天災地變豈に悉く豫知すべけんや以是人の不測の患へを受くる敢て珍しとせざるなり此時に當り倉皇走せて招くも醫の職務の繁多なるより不知不識其準備の不整備を免かれずして爲めに其目的を達し難きとあり本隊は則ち此欠點を補ひ平素

是等を準備し以て幾隊にても速時之に應じて其任務を果たさしむるに在り其趣旨の二とす世の之に注目せるの士幸に之れによらば其幸福豈大とのみ云はんや

一 檢温器檢定 度劃の相違せるを正し以て亂雜なる劃度を一定し用ゆる者をして安んじて之に倚らしむ以上皆一定の料を受く

一 顯微鏡的檢査 咯痰、尿、組織其他諸般の顯微鏡的檢査をなす

一 理化學的檢査 定質定量分析其他種々の檢査をなす

一 法醫學的其他醫學的の鑑定 専門の士之に従事し責を負ふて上記以下の檢査並鑑定に従事す其何故に必要なるかの趣旨の如きは今更ら之を述べす

第三部以下述ぶへきの事多しと雖ども今其趣旨にあらざるを以て多くは略しつ就て學び或は研究し或は依頼せんとするの士おらば更に

第二病院所屬の各部に照會せらるべきなり

院内照すに悉く電燈を以てし夜尙晝を欺く其他變に備ふる唧筒あり各般具備して至らざるなし以是其盛況實に茲に筆するが如きにあらず上述するが如きは僅かに其一端のみ其他院長小笠原大成氏が將來に施設せんとする所の者實に一二にして止さらず日を重ね年を追ふて着々實行せられんとす氏の事業亦偉哉

△記者が之を指して全國私立病院の冠となす豈啻に土地の廣大のみを以ての故のみならんや讀者實地に就て其趣ひざるを知られよ

奈良は大和の東北部に位し奈良縣廳の所在地なり此地一に南都と稱し元明天皇以來桓武天皇遷都に至るまで八十余年間の皇都にして現今は奈良町と稱し戸數四千八百三十九、現住人口二萬五千六百二十二、鐵道は大阪より達するものあり己に奈良より京都に通せんとす

るものあり此地は本邦の舊都なるを以て名所舊蹟頗る多く其重なるは春日神社、東大寺、白藤の瀧、三笠山等にして其他數十所の遊覽所あり旅舎は武藏野、角定、明秀館等を最とす

堺は和泉の北端に位し往昔著名の互市場にして現今は大坂に屬し戸數八千九百十一、現住人口四萬六千五百六十六、市内名所多く鐵道は大坂に通し商況稍々繁盛なり

神戸市は攝津に在り本邦五港の一にして内外各地に來往する汽船の出入日夜間斷なく横濱に亞ぐ貿易場なり其地北に山を負ひ南に神戸港を擁し湊川其中央を貫流す慶應三年開港以來歳月を逐て繁榮を加へ現今戸數三萬五千五百九十一、現住人口十四萬八千六百二十五、

縣廳あり税關あり其他學校病院銀行諸會社等一として備はらざるものなし鐵道は東海道線の市内を貫くありて停車場を三ノ宮及神戸に

設け旅客の昇降に便にせり三ノ宮停車場近傍には外國人居留地、生

田神社、諏訪山温泉、布引瀧等あり神戸停車場附近には湊川神社、

和田崎水族館、廣嚴寺、福原の都址等遊覽すべき所多し旅舎は自由

亭、常盤樓、音羽花壇等有名のもの二十五戸内外なり

其他名邑は宇治(山城)、郡山(大和)、牧方(河内)、岸和田(和泉)、西宮、天王寺、住

吉(攝津)等あり

(名所、舊蹟、神社、佛閣)京都御所は其外郭東、寺町より西、烏

丸に至り南、丸太町より北、今出川に至る此面積二十五萬余坪、内

郭は即ち禁裡にして安政二年の御造營に係る

御苑は禁闕の外郭周圍の地にして明治十一年之を開きて以て御苑と

稱せり其中に仙洞御所、皇族の宮邸京都博覽會場等あり

仙洞御所は往昔上皇の宸居にして林泉幽邃にして之を拜觀すると云

は怡も仙境に遊ぶが如き思あり

平安神宮は桓武天皇を奉祀せる官幣大社にして上京區岡崎町に在り社殿の造營は明治廿八年なり

紀念殿は往時の大極殿に模擬したるものにして平安神宮の拜殿なり疏水運河は源を近江の琵琶湖に發し鴨河東岸に至る延長六千七百七間、此開鑿工事に費す所の金額は實に百十九萬餘圓、是より舟に搭して大津に至るを得べし

南禪寺は往昔龜山法皇の離宮なり大明國師に賜ひしより寺院を爲せしものにして現今禪宗五山の一なり

智恩院は淨土宗の總本山にして洛東第一の巨刹なり境内廣く山門下に數多の茶店あり四時遊覽する者跡を絶たず

圓山公園は知恩院の南に在り東山の風色第一と稱す園内に古き垂枝櫻あり稀世の名樹なり

八阪神社は素盞鳴尊を祀る官幣中社にして祇園町の東端に在り境内末社多し彼の有名なる祇園會は毎年七月十七日廿四日を以て執行せらる

金閣寺は愛宕郡大北山村に在り鹿苑寺と號す此寺は禪宗にして僧疎石の開基に係れり境内三重の閣あり金箔を以て鍍む故に金閣寺と云ふ

北野神社は菅原道真を祀る所の官幣中社にして社殿の宏壯なる境内の廣潤なる他に多く見ざる所なり加ふるに社殿の周圍梅樹多く春候には一層の好景を呈せり

三十三間堂は天台宗蓮華王院と號し一千一十八の觀音を安置す堂は南北六十六間あり二間毎に一柱を立てたるを以て三十三間堂と云ふ

●大佛殿方廣寺は天台宗にして此に有名なる大佛あり又撞鐘堂の鐘は長さ一丈四尺徑り九尺二寸、厚さ一尺豊臣秀頼の鑄造せしところなり

●二條離宮は堀川二條の西に在り本城は永祿十二年織田信長の築く所にして明治九年宮内省の所屬となり爾來二條離宮と稱せらる

●嵐山は山城の西方大堰川の南岸に在り此地春の櫻花秋の紅葉は言を俟たず渡月橋、戸無瀬瀧、千鳥淵等遊覽すべき所多し

●以上は山城の名勝中重なるものにして、其他國の西北には黒谷、眞如堂、銀閣寺、談合谷、光雲寺、若王子神社、永觀堂、粟田神社、粟田御所、安養寺、將軍塚、東大谷、双林寺、高台寺、靈山、八坂塔、清水寺、歌の中山、清閑寺、鳥邊山、西大谷、小松谷、智積院、阿彌陀峯、新日吉神社、豊國神社、耳塚、今熊野觀音、泉涌寺、東福

寺、稻荷神社、藤森神社、平野神社、等持院、衣笠山、龍安寺、三尾、妙心寺、仁和寺、廣隆寺、清涼寺、大覺寺、天龍寺、大徳寺、梅宮神社、壬生寺、大谷派本願寺、本派本願寺、本國寺六角堂、建仁寺、等ありて一々列擧するに遑わらず

●吉野山は大和に在り吉野川は沿岸山谷一里餘の間無數の櫻樹相連り實に一目千樹の名に負かず

●月ヶ瀬は名張川の溪間に在りて梅林三丁餘に亘り花時清香馥郁とし

て數里に及ぶ而して山水の景も亦絶佳なり  
●畝傍は大和に在り此地には神武天皇の御陵、橿原神社、壺坂觀音、久米寺等遊覽すべき所多し

●櫻井驛(大阪線)の近傍には安倍の文珠、多武峯、初瀬觀音、大野彌勒寺、三輪神社、大和神社、寶生寺等遊覽所少なからず

●王寺驛(大阪線)の近傍には摩達寺、信貴山、龍田川の紅葉あり信貴山  
 ●毘沙門天、●瓢箪山稻荷、道明寺天満宮、玉手山安福寺、札所観音、  
 萬井寺等は河内に在り

●大阪城は日本第一の名城にして天正十一年豊臣秀吉の築く所なり其  
 周回一里餘西に大手門あり東に青屋門あり南に玉造門あり北に京橋  
 門等あり此城維新の際兵燹に罹りて今は僅に牙城を存するのみ然れ  
 ども巍乎たる城廓は依然として舊模を存し其壯大なること他城の及  
 ぶ所に非ず現今は第四師團の司令部を此に置けり

●生國魂神社は市の南部に在り官幣大社にして生國魂、足國魂二神を  
 祀り又大物主命を合祀す境内無數の櫻樹あり花季爛熳の好時節に  
 至れば茶店を花間に設け毎夜篝火を焼き都人競ふて此に遊べり又社  
 殿の背後より西方を望めば市中眼下にありて其風光極めて佳なり

●高津神社は仁徳天皇を奉祀せる社にして境内廣からずと雖も櫻樹多  
 く其中に高臺の碑あり其左方に舞臺あり此に登れば眺望頗る好し  
 ●四天王寺は天台宗にして大阪の南部即ち東成郡天王寺村に在り聖徳  
 太子の創建に係り本邦無比の靈場なり寺域二萬五千六百餘坪東西南  
 北の四門あり其西門の前に發心門と稱する石華表ありて其内に納  
 骨堂、引聲堂、短聲堂あり又境内に屹立たる五重塔あり其高さ百五  
 十間四尺、梁行二間一尺四寸最も觀覽の價值あるものなり

●天王寺公園は即ち天王寺の境内なり老樹蒼鬱たる其中に四季の花  
 あり都下及び各地より來て遊ぶ者多し  
 ●住吉神社は攝津の南端に在る官幣大社にして底筒男命、中筒男命、  
 及び表筒男命を祭り又神功皇后を合祀せり此社は神功皇后攝政十一  
 年の創建に係る其社殿の構造古雅にして壯麗なるは他に多く見ざる



所なり境内より海濱に至るまで古松多く連り其中を住吉公園と稱し  
風光明媚天王寺公園と共に府下の二大公園なり又有名なる住吉の高  
燈籠は本社西凡そ二十町の處に在り

茶臼山は府の東南部に在り此山は元和の古戰場にして眞田幸村の戦  
死せし處なり又其東南に雲水寺と稱する禪刹あり庭園幽雅なるど普  
茶料理を爲せるとに因り雅客常に杖を曳けり

阿部野神社は南朝の忠臣北畠顯家を祀る社にして雲水寺の南安部野  
に在り

桃山は有名なる桃園にして春花爛熳たる候には遊客雜沓せり此地は  
市外の東南部に在り

天満天神は大坂の北區内に在り社殿壯嚴にして晝夜參詣する者跡を  
絶たず其境内には茶店數軒あり

三大橋とは淀川に架せし天満天神浪花の三大橋を云ふ皆偉大なる大  
鐵橋にして就中天神橋は長さ百三十一間餘、幅六間大阪第一の長  
橋と稱す次は天満橋にして長さ百十七間餘、幅六間中央より稍々南  
部に備前島(島端と將基)あり又其次は浪花橋にして中ノ島の東端を挾  
んで二橋を架せり此橋上より東の方遠きは膽駒山を望み近くは巍然  
たる大阪城を望み其風光頗る佳なり

中島公園は堂島川と土佐堀川との間に在り四季の花木一としてわら  
ざるものなく園内に豊太閤を祭れる豊國神社明治紀念碑あり就中壯  
觀なるは中央の噴水なり

櫻の宮は櫻花の名所にして淀川の南岸なる長堤一帶の處を云ふ其堤  
上に天照大神を奉祀せる皇大神社あり文人墨客之を稱して櫻祠と  
云ふ

造幣局は淀川の北岸に在りて櫻の宮と相對し其建築の宏壯なる人を  
して一驚を喫せしむ而して櫻の宮より此に往んと欲する者は源八の  
渡を渡るべし

高麗橋は大阪に於ける鐵橋架設の嚆矢にして明治初年の架設に係れ  
り此橋は大坂の中心點なるを以て橋の東畔に各地方の里程を起算す  
る元標あり

大融寺は市外北野村に在る眞言宗の古刹にして弘法大師の開基に係  
れり境内に有名の藤棚あり花季最も遊覽に適す

阿彌陀ヶ池は西區北堀江通四丁目に在り境内本堂の右なる池中に堂  
宇を設けて阿彌陀の像を安置せり

難波御堂は大谷派本願寺の別院にして南の御堂と俗稱す

津村御堂は本派本願寺の別院にして又北の御堂と俗稱し其規模の宏

大なる恰も小城廓の觀あり

座摩、御靈の兩神社は東區内の西部に在りて其社殿の壯麗境内の繁  
盛なるは天滿の天神に譲らざるなり

堂島は本部第一の米市場にして大坂の北區に在り本場の濫觴を繹ぬ  
るに天正年間彼の有名なる淀屋辰五郎が諸國の米穀を買收して市を  
開きしに因れりと云ふ

道頓堀は大坂市中に於て最も華繁熱鬧の地にして五座（浪華、中、角、  
道頓堀）の劇場軒を比べ四時興行の絶ゆる時なし

千日前は道頓堀に接近し見世物諸興行寄席、飲食店等櫛比し晝夜喧  
囂雑沓の地なり

心齋橋筋は大坂に於ける南北一條の街衢にして店舗櫛比し百貨一と  
してあらざるものなく最も殷賑を極む

博物場は大坂市の本町橋東畔に在り場内取て廣からずと雖も陳列品の夥多なる庭園の美麗なる一覽人をして去る能はざらしむるの趣あり殊に美術館の如きは其構造壯麗にして其陳列品中稀代の物品多し

商業俱樂部は大坂市の南端にあり其構造は洋風にして庭園に四時の花木多く一覽の價値あり

天保山は大坂安治川河口に在りて天保年間安治川を浚濬し其泥沙を以て沙洲を爲せしものにして公園地、海水浴場、其他旅舎、割烹店等ありて頗る繁盛なり

其他名所古蹟神社佛閣市の内外至る所に多きも今一々之を列擧するに違わらず

尻無川の榎は秋季の遊覽に適し其紅なる榎葉は楓葉に優るの觀あり

此地は大坂の市街を距る程遠からざる西方にあり

箕面山は攝津に於ける楓葉及び瀑布の名所にして大阪を距る六里餘、山中に寺あり灌安寺と云ふ瀑布は此寺より半里許の處に在り満山楓樹ならざるはなく其風光極めて佳なり此風光を見んと欲する者は大阪の西なる神崎の停車場にて攝津鐵道に乗換へ池田にて下車し一里半の間人力車にて往くべし

寶塚の温泉は攝津に在り土地高燥幽邃にして且つ効あるが故に浴客常に多く頗る繁盛を極む此地に遊ばんと欲する者は西ノ宮停車場より下車すべし

牧岡は攝津にあり此地近來梅花を以て尤も有名なり其梅林は紅塵を脱し文人墨客にして花季杖を曳く者多し

須磨浦は攝津に在り古松蒼鬱、翠色滴るが如し是れ即ち御料林なり

境内に保養院(海水)、療病院あり其他海水温泉、酒樓、數軒あり此地  
 風光幽雅、四季共に賞遊の客多し殊に山陽鐵道の停車場あるを以て  
 行遊に便なり、須磨寺、一ノ谷の古蹟、須磨の關屋、行平松風村雨、  
 五色山、遊女塚等古蹟の探るべきもの甚た多し

宗禪寺馬場は大阪を距る凡そ一里半の北方にあり此地は世に有名な  
 安藤治左衛門及び其弟喜八郎が其仇なる生田傳八の爲めに逆撃せ  
 られたる古蹟にして今尙は宗禪寺境内には治左衛門兄弟の石碑あり  
 此寺には其際治左衛門兄弟の着せし鎖帷子、刀劍等寶物として保存  
 せり

四條畷神社は補正行を祀れる別格官幣社にして河内飯盛山の西麓に  
 在り此地には大阪の片町より來る鐵道ありて四時參詣する者多し而  
 して社殿を距る南十町に四條畷の古戰場あり

妙國寺の蘇鐵は和泉の堺に在り其高三間餘大枝二十三本年を經るこ  
 と四百年なりと云ふ

牛瀧山の楓は和泉に在り晩秋の候尤も遊覽の價値あり此地に一遊せ  
 んど欲する者は大阪より坂堺鐵道の汽車に搭して往くを便なりとす  
 大濱公園は和泉の堺に在り其園茅停海(大阪)を擁し前には遙に淡路  
 島を控へ土嶺阿山を雲烟縹渺の間に望み右に播磨の諸山あり左に紀  
 伊の峯嶺あり風光絶佳愛すべし而して海水浴場、旅舎、割烹店等あり  
 て四時遊覽の客頗る多し

西ノ宮は攝津に在り神功皇后の御出產地と稱する打出の濱は此近傍  
 の海濱なり又猿丸大夫の墓、業平の邸跡あり  
 住吉(京神間)の住吉神社は美人四時絶えず岡本梅林は東北半里餘に  
 在り

生田の森は攝津に在りて三宮停車場の近傍なり此地源平の古戰場にして其中に生田神社あり境内に腋の梅、梶原の井、敬盛萩等遊覽すべきもの多し

布引瀑布は攝津の武庫山腹に在り上下二層に懸り一を雄瀧と云ひ高さ十五丈八尺余、一を雌瀧と云ひ高さ七丈三尺余、幅各二間にして頗る壯觀なり其近傍に茶亭、割烹店、旅舎、温泉等あり神戸停車場を距ること二十丁

諏訪山温泉(神戸停車場) 湊山温泉(神戸停車場) は皆攝津に在り各茶亭、旅舎、酒樓等の設け至らざるなく閑地静遊を取るに適す

湊川神社は楠正成を祀る別格官幣社にして社殿壯麗、境内廣く正門内の右なる松林中に水戸光圀の建設せし一碑あり又境内には劇場、寄席其他商店櫛比し日夜繁盛を極む

和田崎水族館は攝津の兵庫を距る二十町、兵庫港西南の岬、和樂園中に在り魚介細大漏すなく放養す此地殊に山海の風光に富めり又築島寺及び清盛塚は其順路に在り

有馬温泉は攝津に在り神戸停車場より八里腕車にて四時間に達すべし此温泉は古來有名にして由來最も遠く神代より湧出するものなりと傳ふ浴場には奥の坊、二階の坊其他十餘戸の温泉宿あり

其他本道には歴史上の古趾多く大和には橿原宮趾(神武)、吉野宮趾、笠置宮趾(朝)あり河内に金剛山、赤坂兩城趾(楠)あり攝津に一ノ谷福原の都趾(中) 湊川の古戰場(楠)等あり

一沿革(畿内は神武天皇都を大和の橿原に奠め玉ひしより明治維新の際に至るまで皇都を置き玉ひたる土地なり而して元明天皇の朝までは大和の各地に皇都を遷し桓武天皇に至り山城に遷し源賴朝府を

鎌倉に開くに及び京都以下の守護を置き北條氏に至りて兩六波羅探題を京都に置き建武中興の後百般の制度を古に復し未だ幾くならずして足利氏府を室町に開く永祿年間足利氏の政令衰へ群雄割據し畿内戦區となる天正の初め織田信長之を討平し京都に諸司代を置き堺に政廳を設け攝津に守護を置く其後徳川氏に至り尙ほ京都諸司代あり其他堺、兵庫に奉行を置けり明治維新に至り皇都を東京に遷し玉ひ現今の府縣を置て分治せしむるに至れり

(鐵道)畿内の鐵道は官有の京都大阪神間、奈良鐵道の京都伏見間、大阪鐵道の湊町奈良及王寺櫻井間、並に湊町梅田間、浪速鐵道の片町四條畷間、坂堺鐵道の難波、堺間、攝津鐵道の尼崎池田間、山陽鐵道の神戸須磨間にして其驛名、哩程及び賃金は左の如し、但し左に掲ぐる賃金は下等賃金なり而して公衆電報取扱所の符號(X)を用ふ

京都大阪神戸間 (中等賃金は下等の二倍 上等賃金は下等の三倍)

(京都より)

京 都	向 日	山 崎	高 槻	茨 木	吹 田	大 阪	神 崎	西 宮	住 吉	三 宮	神 戸
四 哩 〇 九 鎖	四 哩 七 十 五 鎖	四 哩 七 十 一 鎖	四 哩 〇 六 鎖	四 哩 三 十 九 鎖	四 哩 八 十 鎖	四 哩 六 十 鎖	四 哩 六 十 五 鎖	五 哩 二 十 六 鎖	四 哩 七 十 九 鎖	一 哩 〇 四 鎖	
四 錢	九 錢	十 四 錢	十 八 錢	廿 二 錢	廿 七 錢	三 十 一 錢	三 十 六 錢	四 十 一 錢	四 十 七 錢	四 十 七 錢	

京都伏見間 (中等賃金は下等の二倍 上等賃金は下等の三倍)

京 都	伏 見
四 哩	四 哩
四 錢	四 錢

住天雞	四住德放片	梅天京玉桃天湊
下茶	條	王
吉屋波	難波塚間	町
	吸道巷出町	寺町
二哩十四銀	二哩十五銀	二哩廿二銀
三哩四十二銀	三哩廿七銀	三哩五十銀
	五哩七十八銀	四哩五十銀
	八哩二銀	六哩廿四銀
		七哩六十八銀
		八哩七十九銀
四三	八六三二	七七六五四三
錢錢	錢錢錢錢	錢錢錢錢錢錢

片町四條噺間(特等貨金は並等の二倍)

(片町より)

(片町より)

(雞波より)

(波雞より)

(湊町より)

(湊町より)

奈那法王	櫻畝高下王	王柏八平天湊
隆		王
真山寺	寺井傍田田寺	寺原尾野寺町
十八哩十九銀	四哩六銀	二哩廿二銀
二十二哩四十二銀	七哩十一銀	四哩五十五銀
二十五哩三十六銀	十哩七銀	七哩三十一銀
	十三哩十一銀	九哩七十八銀
		十五哩七十八銀
三十五	十十四	二十十四
錢錢	錢錢錢錢	錢錢錢錢

湊町梅田間(中等貨金は下等の二倍上等貨金は下等の三倍)

(湊町より)

湊町奈良及王寺櫻井間(中等貨金は下等の二倍上等貨金は下等の三倍)

(湊町より)

(王寺より)

界

尼崎池田間

六哩二十二銀

七

錢

池伊南塚長大尼  
田丹口口洲物崎

(尼崎より)  
四十九銀  
一哩五十八銀  
三哩九銀  
四哩三十七銀  
五哩十銀  
八哩三十四銀

(尼崎より)  
五錢五厘  
二錢五厘  
四錢五厘  
六錢五厘  
七錢五厘  
十一錢五厘

神戸須磨間

×須 兵 神  
磨 庫 戶

(神戸より)  
一哩十銀  
四哩四十五銀

(上等) 三錢  
(中等) 二錢  
(下等) 九錢  
五錢

〔航路〕本道の大阪は本邦商業の中心なるを以て海船船舶の九州、四國、中國、北海道、沖繩、朝鮮等の諸港に往來航行するものに幾十

艘なるを知らず大阪商船會社の航路は馬關線、細島線、和歌山線、宇和島線、門司尾ノ道間直航線、仁川線、境線、洲本線、玉島線、坂越線、多度津線、徳島線、鹿兒島線、沖繩線、若津線にして其各航路及び旅客乗船賃は左の如し

大阪境間航路

大坂	二一	九五	一、八〇	二、三〇	三、四〇	三、五〇	三、六〇	三、七〇	三、八〇	三、九〇	四、〇〇	四、一〇	四、二〇	四、三〇	四、四〇	四、五〇	四、六〇	四、七〇	四、八〇	四、九〇	五、〇〇
神戸	八五	一、八〇	二、三〇	三、四〇	三、五〇	三、六〇	三、七〇	三、八〇	三、九〇	四、〇〇	四、一〇	四、二〇	四、三〇	四、四〇	四、五〇	四、六〇	四、七〇	四、八〇	四、九〇	五、〇〇	五、一〇
津多度	一、五〇	二、七〇	二、九〇	三、〇〇	三、一〇	三、二〇	三、三〇	三、四〇	三、五〇	三、六〇	三、七〇	三、八〇	三、九〇	四、〇〇	四、一〇	四、二〇	四、三〇	四、四〇	四、五〇	四、六〇	四、七〇
馬關	一、五〇	二、七〇	二、九〇	三、〇〇	三、一〇	三、二〇	三、三〇	三、四〇	三、五〇	三、六〇	三、七〇	三、八〇	三、九〇	四、〇〇	四、一〇	四、二〇	四、三〇	四、四〇	四、五〇	四、六〇	四、七〇
萩	六五	八五	一、〇五	一、二五	一、四五	一、六五	一、八五	二、〇五	二、二五	二、四五	二、六五	二、八五	三、〇五	三、二五	三、四五	三、六五	三、八五	四、〇五	四、二五	四、四五	四、六五
江崎	二五	四五	六五	八五	一、〇五	一、二五	一、四五	一、六五	一、八五	二、〇五	二、二五	二、四五	二、六五	二、八五	三、〇五	三、二五	三、四五	三、六五	三、八五	四、〇五	四、二五
瀨田	二五	四五	六五	八五	一、〇五	一、二五	一、四五	一、六五	一、八五	二、〇五	二、二五	二、四五	二、六五	二、八五	三、〇五	三、二五	三、四五	三、六五	三、八五	四、〇五	四、二五
温泉	二〇	四五	六五	八五	一、〇五	一、二五	一、四五	一、六五	一、八五	二、〇五	二、二五	二、四五	二、六五	二、八五	三、〇五	三、二五	三、四五	三、六五	三、八五	四、〇五	四、二五
境	七〇	八五	一、〇〇	一、一五	一、三〇	一、四五	一、六〇	一、七五	一、九〇	二、〇五	二、二〇	二、三五	二、五〇	二、六五	二、八〇	二、九五	三、一〇	三、二五	三、四〇	三、五五	三、七〇
徳島	二〇	三五	五〇	七五	一〇〇	一二五	一五〇	一七五	二〇〇	二二五	二五〇	二七五	三〇〇	三二五	三五〇	三七五	四〇〇	四二五	四五〇	四七五	五〇〇
大坂	二一	九五	一、八〇	二、三〇	三、四〇	三、五〇	三、六〇	三、七〇	三、八〇	三、九〇	四、〇〇	四、一〇	四、二〇	四、三〇	四、四〇	四、五〇	四、六〇	四、七〇	四、八〇	四、九〇	五、〇〇

大阪洲本間航路

大坂	二一	二七	三三	三九	四五	五一	五七	六三	六九	七五	八一	八七	九三	九九	一〇五	一一一	一二	一二	一三	一四	一五
兵庫	二七	三三	三九	四五	五一	五七	六三	六九	七五	八一	八七	九三	九九	一〇五	一一一	一二	一二	一三	一四	一五	一六
假屋	二八	三五	四一	四七	五三	五九	六五	七一	七七	八三	八九	九五	一〇一	一〇七	一一三	一二	一二	一三	一四	一五	一六
志築	二九	三五	四一	四七	五三	五九	六五	七一	七七	八三	八九	九五	一〇一	一〇七	一一三	一二	一二	一三	一四	一五	一六
洲本	三〇	三五	四一	四七	五三	五九	六五	七一	七七	八三	八九	九五	一〇一	一〇七	一一三	一二	一二	一三	一四	一五	一六

大阪徳島間航路

大坂	二一	三五	五〇	七五	一〇〇	一二五	一五〇	一七五	二〇〇	二二五	二五〇	二七五	三〇〇	三二五	三五〇	三七五	四〇〇	四二五	四五〇	四七五	五〇〇
徳島	二〇	三五	五〇	七五	一〇〇	一二五	一五〇	一七五	二〇〇	二二五	二五〇	二七五	三〇〇	三二五	三五〇	三七五	四〇〇	四二五	四五〇	四七五	五〇〇





								大阪
							兵庫	二一八
						明石	一五七五	四二二五
					高砂	一八九六	三三六一	六三〇〇
				飾磨	一八九六	三〇五〇	四二二五	七三二五
			網干	一五七五	二七三九	四二二五	五二一四	八四二七
	室津	一五七五	二〇七	三六八二	五二一五	六三二一	七三二一	九四三〇
阪越	一八九六	二二八	三〇五〇	四二二五	五二一五	六三二一	七三二一	八四三〇

大阪、阪越間航路

						神大
					細島	二一五
				油津	四二二	六〇〇
		鹿兒	一五〇	四〇〇	五〇〇	六〇〇
	名瀬	三〇〇	四〇〇	五〇〇	六〇〇	八〇〇
沖繩	三〇〇	四〇〇	五〇〇	六〇〇	八〇〇	一〇〇〇

大阪、沖繩間航路

									大阪
								神戸	二一八
							津多	九二八	四九五
						今治	九六四	六三五	七三五
					三津	六四三	五〇七	九三三	九九三
				門馬	三二四	三二五	三二五	三二五	三二五
			博多	九六四	八八二	八八二	八八二	八八二	八八二
		唐津	一七五〇	二八八	二八八	二八八	二八八	二八八	二八八
	呼子	三三五	三三五	三三五	三三五	三三五	三三五	三三五	三三五
里伊	九六四	九六四	九六四	九六四	九六四	九六四	九六四	九六四	九六四

大阪、伊萬里間航路

						馬關、門司、長洲間航路
					門司	六四三
				中津	六四三	七三五
			長洲	二八五	二八五	二八五

中津字ノ島長洲ヨリ  
 大坂神戸其他各港ニ  
 赴クモノハ馬關門司  
 ニ同シ

大阪、宇和島間航路

大阪	二三	七五	九五	二二五	二一五	三三〇	四〇	二六〇	一六〇	一六〇	二六〇	二六五	二七五	二七五
神戸	六五	八五	一一五	一二五	三〇	四〇	二六〇	一六〇	一六〇	二六〇	二六五	二七五	二七五	二七五
高松	二五	六〇	八五	二〇〇	二三〇	三三〇	二三〇	二三〇	二三〇	二三〇	二四〇	二四五	二四五	二四五
津多度	四五	四五	七〇	八〇	一三〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二一〇	二一五	二一五	二一五
新居														
今治														
三ツ														
長瀬														
守江														
日出														
別府														
大分														
佐賀														
関														

大阪、玉島間航路

大阪	二二八	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
神戸	二二八	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
岡山	二二八	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
小豆	二二八	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
高松	二二八	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
津多度	二二八	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
玉島	二二八	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇

岡山ヨリ玉島ニ至  
ル乗船賃ハ小豆島  
ヨリ該各港ニ赴ク  
モノト全額ナリ

の表は専ら下等乗船賃を掲載す但し乗船賃は錢位に止む中等乗船賃  
は下等の五割を増し上等は中等の五割を増す又別室上等は中等の一  
倍とす表中乗船賃を三に掲げたるは右を下等、中を中等、左を上等  
乗船賃と爲す

瀬戸内航路里程及着港時間

自大阪	七十五	七	時間餘
至高松	九十四	九	時間餘
至多度津	百十四	十一	時間餘
至鞆津	百廿七	十二	時間餘
至尾ノ道			

至	竹原	百四十三湮	十四時間餘
至	吳	百六十六湮	十六時間餘
至	宇品	百七十六湮	十七時間餘
至	嚴島	百八十六湮	十八時間餘
至	岩國	百九十五湮	十九時間餘
至	徳山	二百五十二湮	廿五時間餘
至	門司	二百九十二湮	廿九時間餘
至	赤間關	二百九十二湮	廿九時間餘

〔人口及風俗〕畿内の人口は二百五十二萬三千七百〇九にして平均一方里の人口五千六百六十四に該當せり

畿内の風俗を概言せば山城地方は温淳にして進取の氣に乏く儉嗇にして飲食を節し衣服を飾るの風あり大和、河内地方は質樸にして勤

儉の風を存し和泉、攝津地方は優柔奢侈の風を免れされども山間僻

地の民は淳厚の風あり

〔氣候及地味〕畿内の氣候は概ね中和なり然れども各地方に就て言へ

ば山城は寒暖常ならず大和は寒冽にして河内は温暖なり就中攝津和

泉地方の如きは海に瀕するを以て最も暖氣なり

地味は一般に肥沃なるが如し就中河内の北方淀川の下流攝津地方、

和泉の北方、大和の北方其他大和川附近は大抵肥沃なり而して畿内

の田畑は十六萬町餘あり

〔鑛山及物産〕畿内の銅坑は大和の枋尾、天ノ川郷、和田村、天和

山、攝津の泉原等に在り銀坑は攝津の永盛山及び間歩山等に在り

「アンチモニー」坑は大和の谷後山に在り陶土坑は攝津の地庄及び山

城の愛宕郡等に在り

物産の重なるものは山城の京都に西陣織物、繻物、染物、清水焼、等あり又山城の宇治は茶の産出を以て有名なり大和には吉野葛、吉野紙、飛白、奈良漬、奈良酒等あり河内和泉には木綿あり攝津には伊丹酒、池田炭、御影石、有馬細工等あり就中京都の織物、宇治茶、攝津の伊丹酒は最も有名なり

東 海 道

〔位置及疆域〕東海道は畿内の東、本州の中央南部に位し東經百三十六度十四分より百四十一度八分に至り北緯三十四度十五分より三十六度五十六分に至る其地西は畿内及び南海道に界し北は東山道に接し東南は太平洋に瀕す

〔地勢及面積〕本道は東西に長く南北に短し甲斐、駿河及び遠江の北

部と畿内に接する所の地方は山岳多し然れども相摸以東の六國及び東山道の上野下野即ち關東八州は大原野を爲せり又尾張の過半と下總は低平にして習志野、小金原、小牧等の原野あり此全面積は凡そ二千六百五十八方里餘あり

〔山嶽〕白根山(高一萬二)は甲斐に在り八ヶ嶽(高九千百)亦其北境に在り地蔵嶽(高千八百)西境に峙ち、金峯山(高八千五百)、七面山(高七千)、大菩薩嶽(高六千三百)、雁阪山(高六千八百)等あり、天城山(高四千)は伊豆の中央部に聳へ山中良材を出す箱根山(高四千)は相摸の西境に屹立し其山脈伊豆の國境に跨れり、愛鷹山(高四千)は駿河に在り其山麓より海岸に至る原野を稱して浮島平野と云ふ、武甲山(高四千三)は一に秩父岳と云ふ武藏の西部に峙つ其山脈三峯、兩神等の諸峯と爲れり、黒法師山(高七)は遠江の北部に在り其他秋葉山及び常陸の筑波山等は

名山なり、富士山(高三萬二千三百七十尺)は駿河甲斐兩國に跨りて山脚は衆草繁茂し山腰樹木多く山腹以上は岩石岬々として草木生せず延暦十九年始めて噴火し寶永年間に再び爆發し山腹に一峯を生ず寶永山即ち是なり然れども現今は息火山にして山嶺に一里餘の噴火口あり而して山麓數里に亘る原野あり富士の裾野と云ふ、鰐山(高二千八百尺)は伊豆の八丈島に在り其形富士に似たるを以て八丈富士と稱す山嶺常に煙を噴出す、三原山(高二千五百尺)は伊豆の大島に在り常に噴煙せり雄山も亦火山にして三宅島に在り

河川利根川は源を上野に發し武藏、下野の國境を貫流して下總の鏡子港に至り海に注ぐ流程七十一里餘舟運の便極めて善く坂東第一河流なるを以て一名を坂東太郎と稱す其支流を江戸川と云ひ下總の南端に至り海に入る、天龍川は源を信濃に發し遠江に入り海に注ぐ

其流程五十六里許、大井川は源を甲斐の白根山に發し遠江の東境を流れ海に注ぐ流程四十六里余、木曾川は源を信濃に發し尾勢二州を貫流して海に注ぐ其流程凡そ五十五里許、荒川は源を武藏に發し其下流を隅田川と稱し又之を大川と云ひ遂に品川海に入る其流程四十三里餘、富士川は三所の水源あり信濃より發するを釜無川と稱し甲斐より發するを笛吹川と稱し一を蘆川と稱す三流合して駿河の北境に入り海に注ぐ其流程二十九里余水勢頗る急にして日本三急流の一なり、其他常陸に那珂川(流程四十二里)あり相摸に馬入川(流程三十一里)あり三河に矢矧川等あり

海岸及港灣本道の海岸は屈曲出入極めて多く其重なるものは東京、伊勢、駿河の三大灣、房總及び伊豆の大半島是なり、港の重なるものは伊勢に四日市、礪の兩港あり四日市港は深さ四仞より五仞

に至り磯港は凡そ八俣にして共に良港なり、**的矢**、**鳥羽**の兩港は共に志摩にあり**師崎港**は尾張に在り**大濱港**は三河に在り、**清水港**は駿河に在り駿遠兩國の物産を輸出する所なり**下田港**は伊豆に在り、**横須賀**、**浦賀**の兩港は相摸に在り**横須賀港**は本邦軍港の一にして深さ二俣より十二俣に至る、**横濱港**は武藏に在り**安政六年**の開港に係り本邦五港の一たり、**銚子港**は下總に在り深さ二俣餘あり**灣**の重なるものは志摩の**岬**と三河の**伊良胡崎**と東西相對して**一大灣**を爲す**伊勢内海**是なり、尾張の**羽豆岬**と三河の**伊良胡崎**と相對し**三河海**(又**衣浦**)を爲す、**濱名湖**は遠近に在り昔時潮流相通ぜざる**一大湖**なりしも**寶永年間**地震の爲め其湖口崩壊して入海に變ぜり其崩口を今切と稱す、**相摸灘**は相摸の**三崎**と**伊豆半島**と東西相對して内海を爲せる所なり、**遠江灘**は伊豆の南端より志摩の**大王崎**に至るまでに

して海上七十里餘風濤常に暴く航行上困難を感ずる所たり、**東京灣**

は武藏と上總の間に於ける**一大灣**を云ふ

(**岬角**)志摩は本道の**半島國**にして**岬角**多し**大王崎**(一に**虎視崎**又**大鼻**と稱す)は東南に突出すること**三里許**、**岬端岩礁**錯出し航行の危険なる**東海第一**の所と稱す、**麥崎**は南端に突出すること**三町許**、**羽豆崎**は尾張に在り一に**師崎**と云ひ**波濤**常に怒號す、**伊良胡崎**は三河に在りて**羽豆崎**と相對す、**御前崎**は遠江に在り**駿河灣口**に當り突出すること**二里餘**、**觀音崎**は相摸に在り**砲臺**の在る所なり、**本牧岬**は武藏に在り東南に突出す、**石廊岬**は伊豆の南端に在り突出すること**七町許**、**犬吠崎**は下總に在り突出すること**五町餘**、**野島崎**は安房に在り南端に突出すること**三町許**是より以東を**房州沖**と稱し潮流急なり其他上總に富津、**大東崎**等あり

〔島嶼〕伊豆の東南海上に碁布する島嶼を伊豆の七島と云ふ大島、利島、新島、神津島、三宅島、御倉島、八丈島是なり  
 大島は伊豆の下田港を距る東八里餘、七島中最も大なるものにして其周回十里餘、島内三原山と稱する噴火山あり  
 利島は大島の東南四里餘に在り其周回二里許、島の中央に宮塚山（高千七百三十五尺）と云ふ高山あり而して島内飲料水に乏し  
 新島は利島の南一里許に在り其周回六里餘沙土にして耕作に適せず此島を南十八町許の所に式根島（周回一）あり  
 神津島は式根島の西南二里餘に在り其周回幾んど六里、中央に天城山（高二千尺）あり此島の近傍に二三の屬島散布す  
 三宅島は神津島の東南八里許に在り其周回七里餘、島内に雄山と稱する噴火山峙てり又此島の西方二里許に大野原島と稱する屬島あり

御倉島は三宅島の東南四里許に在り其周回四里餘、島の四面崖礁險峻なり  
 八丈島は御倉島の東南二十里許に在り其周回十里餘、大島より小なること十町餘に過ぎず島内に甌山（二に西山）と稱する噴火山あり而して西方一里許に小島（周回一）あり南方十八里許に青ヶ島あり、周回五里餘、此二島共に屬島たり  
 小笠原島は八丈島の東南百八十里許に在りて北より南に列れる八十九島より成る本島は北緯二十六度三十分より二十七度四十五分に至り東經百四十二度二十三分より百四十二度三十三分に至る  
 本島は面積四万里にして南北に亘ること三十五里、之を父島、母島、鯨島の三島に分る爾餘の諸島は皆之に屬せり而して東京を距る二百



五十里許

本島は文祿元年小笠原貞頼の發見に係り因て其姓を以て島名と爲す  
 天保元年伊太利人男女二十二名を伴ひ父島に移住す是を住民の初め  
 とす文久元年幕府、吏をして諸島を巡視せしめ翌年八丈島の人民四  
 十餘名を移して開拓に従事せしめし翌三年故ありて移住民を退去  
 せしむ茲に至て開拓事業中絶せり明治八年、官、内地の人民を移住  
 せしむ爾後土地漸く開く明治十年に及び東京府の管轄に歸し島廳を  
 置きて島政を司らしむ

父島は本島(又北島)と稱し周回十五里余、島内に旭山あり群島中第一  
 の高山なり大村と稱する所は一の市街にして島廳の所在地なり大  
 港、官濱等の港灣あるも船舶の碇泊に便ならず八ッ瀬川は西瀧海に  
 注ぎ水深くして舟筏を通ずるを得、而して屬島の大なるものは兄島

(周回四)弟島(周回三)とす地味は一般に肥脊相半せり  
 母島(一に南島)は父島の西南十一里許に在り其周回十里余にして北港  
 と種する港灣あり深さ七仞余稍々良港なり向島(周回一里)平島(周回一)  
 は屬島中の大なるものとす

● 舞島は父島の北十八里餘に在り周回三里許 ● 煤島(周回二) ● 嫁島之に屬す

地勢は一般に山岳多くして平原少く沿海の地は岩石相連り波浪激  
 甚なるを以て、船舶の寄泊地に乏し

● 硫黄島は小笠原島の南々西、北緯二十四度より二十五度三十分東經  
 百四十一度より四十一度三十分の間に散在せる三島にして其中央に  
 在るを硫黄島と稱し其南に在るを南硫黄島と稱し其北に在るを北硫  
 黄島と稱す而して本島は小笠原島に附屬せり

以上の諸島は熱帯地方に近きを以て氣候頗る炎熱なり而して物産は綿、甘藷、山藍、烟草、玉蜀黍、西瓜、大根、章魚、紫貝、緑鰹、鱈、鯨、鱈、椰子、鳳梨、大蝙蝠、信天翁、硫黄(硫黄島の産出)等なり其他奇異の動植物あり

〔湖沼及瀑布〕本道中著大なる湖沼は富士の八湖の中にて甲斐の河口湖(四里)、山中湖(三里)相摸の蘆湖(三十町)等なり蘆湖は箱根山中に在りて水色清く富士の山影之に倒寫して風光極めて絶佳なり印幡沼は(三周回)下總に在り入鹿池(三周回)尾張に在り霞浦(三周回)は常陸に在り本邦第二の大湖と稱す其他牛久沼、大寶沼、北浦等あり最著の瀑布中大垂瀑は遠江に在り二條に注下し一は高さ五十丈、一は二十丈余、布引瀑は伊勢に在り高さ九十丈にして壯觀なり其他風折、不動の二瀑あり、逆巻瀑は武蔵の中津川に在り高さ五十丈幅五

間、四度瀑は常陸に在り高さ四十丈、幅四十一間にして極めて壯觀なり此外伊豆の旭瀑、駿河の大瀑等あり

〔温泉〕本道に於ける温泉の著名なるものは伊豆に熱海、修善寺、湯ヶ原、湯ノ島、松原等の諸泉あり、相摸に箱根七湯あり湯本、塔ノ澤、宮ノ下、堂ヶ島、底倉、木賀、蘆ノ湯是なり其他伊勢の朝湯、榊原、駿河の梅ヶ島、甲斐の三藤、新湯、澁湯、武蔵の山田、柴原、小河内、下總の湯ヶ嶽、常陸の神岡、折橋、袋田、大管等あり〔都邑〕東京は武蔵平野の東隅に位し日本帝國の首府にして宮城の在る所なり其他諸官衙學校、議院、病院、銀行諸會社博物館等ありて其建築の壯麗、市街の宏壯戸口の稠密なる等一見人をして驚かしむ此地陸に汽車あり海に漁船あり其便他地方の比に非ず東海道鐵道線に依て各地に遊んど欲する者は新橋停車場より下車し先づ二重

橋、上野、淺草の公園、隅田川、九段坂等より遊覽すべし其他到處に春花秋月四時の觀を備へ數月を費すも一々之を覽悉す能はず旅舎は帝國ホテル、東京ホテルを始めとし有名のもの數百軒あり又多くの旅舎は日本橋馬喰町に在り

横濱市は五港の一にして本邦第一の貿易場たり此地東京を距る僅に七里餘瀛車は五十分間を費して達す全市中北部は最盛にして本町、辨天通、南北仲通等商家櫛比し又南部には外國人の居留地あり旅宿は富貴樓、津久井屋を始めとし有名なるもの二十餘戸瀛船の出入最も頻繁にして内外各港に來往する定期航海船夥し

名古屋市は尾張に在り愛知縣廳の在る處なり此地東西兩京の中間にありて繁榮三都に亞ぐ名古屋城、牧山の公園、豐國神社等遊覽所多し旅宿は秋琴樓、山田屋、品忠、丸文等を始めとし其他數十あり

靜岡市は駿河に在り靜岡縣廳の所在地にして駿州第一の都會なり故を以て商況の盛んなること殆んど名古屋に譲らず而して淺間神社は此地より十五町其他遊覽所多し普通の旅舎は傳馬町に多し藤屋、上藤屋等其重なるものにして停車場前の大東館、機陽館、靜榮館、清鶴館、清水館、見晴等は有名なり

其他伊勢の津市、常陸の水戸市、甲斐の甲府市等皆繁榮の地にして鐵道の便ありて一遊するの價値あり而して此他名色頗る多しと雖も一々列舉するに違わらず

名所舊蹟、神社佛閣三保松原は駿河に在り一帯の沙洲海中に斗出すること一里餘、白沙青松相映じ風光明媚なり清見瀨は田子浦、三保松原の勝景總て一眸の中に在りて風景畫くが如し

品川は武藏に在り東京の南端にして妓樓のある所なり是より北五町

餘に泉岳寺あり又御殿山、東海寺、海晏寺等有名の舊地あり  
 東京の上野は日本鐵道會社線の起點にして其近傍に上野公園、淺草  
 公園、神田明神、根岸の里、不忍池等あり此上野停車場を距る三哩  
 餘に王子驛あり此附近に飛鳥山、王子權現、王子稻荷あり  
 東京の本所停車場近傍には龜井戸の天神、向島の梅、墨堤の櫻、堀  
 切の葛蒲等遊覽すべきもの多し  
 東京の新宿は甲州街道の重なる驛にして其近傍に大久保村あり此村  
 落は躑躅花を以て有名なり  
 官設鐵道の東海道線にて遊覽すべき所は藤澤驛の遊行寺、平塚驛よ  
 り四里十町を隔つる大山雨降神社、大磯の海水浴場、鴨立澤、曾我  
 兄弟の舊蹟、佐野驛の佐野瀑園(避暑に)沼津驛の我入道、牛臥戸田等  
 の海水浴場、興津驛の清見寺、燒津驛の海水浴場及び日本武尊の賊

難を免れ玉ひし舊地、金谷驛近傍の小夜の中山、濱松驛の濱松城跡、  
 五社神社、半僧坊の出張所、豐橋驛の豐川稻荷、蒲郡驛の海水浴場、  
 熱田驛の熱田神社、白鳥の御陵等にして伊勢に入れば桑名の春日神  
 社、四日市の繁華、神戸町の龍光寺、飯野神社、白子町の子安觀音、  
 不斷櫻、高宮近傍の石薬師、源範頼の古蹟蒲櫻、龜山の能褒神社、  
 津の公園、結城神社、關の近傍なる關地蔵、筆捨山、石部の東寺西  
 寺の兩古刹等なり  
 伊勢の大神宮は雄略天皇の創建し玉へるを外宮と云ひ垂仁天皇の創  
 建し玉へるを内宮と云ふ構造質樸なるも宏壯なり  
 下總の成田不動は堂宇壯麗にして天慶年間僧寬朝の開基に係る  
 相摸の江の島は風光絶佳にして島中天女の祠を安ぜり此島中より遙  
 に富士山を望むを得べし

尾張に小牧山、長湫、桶狭間の古戰場あり桶狭間は草野荒涼の間に古碑一基あり即ち今川義元の墳墓なり遠江に三方ヶ原あり甲斐に天目山あり相模に鎌倉及び石橋山あり是れ皆歴史上の古蹟なり

鎌倉は建久以來二百年間覇府のありし所なれば各所古蹟の多きこと他に比類少なし其重なるものは鶴ヶ岡八幡宮、鎌倉宮、葛原岡神社、建長寺、長谷観音、大佛等にして其他數百の遊覽所行く所にあらざるなし其他海水浴場ありて浴客常に多し

横須賀は相模に在り吾邦第一の軍港にして鎮守府を置く又巨大なる造船所あり而して此地の近傍なる浦賀は安政年間米國使節の始めて軍艦を率ゐ來りて投錨せし地なり

〔沿革〕上古本道の駿河より東北は蝦夷地にして王土に歸せざりしが景行天皇の朝、日本武尊之を征定し玉ひ全く王土に歸す是に於て國

造、縣主を置きて統治せしむ大化の初め國郡の制を定め十一國と爲し後ち十五國と爲す天慶二年 平 將門反し八州を煽動し翌年誅に伏す永曆年間 源 賴朝伊豆に流され後ち兵を擧げ平氏を滅し府を鎌倉に開く建武中興に至り成良親王東國の管領に任ぜらる後ち足利氏の政令衰へ群雄四方に起り天下大に亂る織田信長尾張に起り京畿二十余州を併定し足利氏に代て兵權を握る本能寺の變あり信長明智光秀の爲めに弑せらるるや豊臣秀吉光秀を誅し織田氏に代りて天下の兵權を握る

〔鐵道〕本道の鐵道線路は官有鐵道の新橋木曾川間、大船、横須賀間、大府武豊間、關西鐵道の名古屋龜山間、龜山津間、參宮鐵道の津、宮川間、日本鐵道の土浦友部間、及小山水戸間、總武鐵道の本所佐倉間にして其驛名、哩程及賃金は左の如し、但し左に掲ぐる賃金は



名	津	一	下	龜	須	返	鎌	大	武	牛	龜
古	身	ノ	庄	山	賀	子	倉	船	豐	田	崎
屋	田	庄	山	山	賀	子	倉	船	豐	田	崎
江	九	七	三	龜	十	五	二	大	十	九	六
五	哩	哩	哩	山	哩	哩	哩	船	哩	哩	哩
七	十	十	十	山	三	三	七	船	一	四	廿
十	七	七	七	山	三	一	八	船	銀	銀	九
銀	銀	銀	銀	山	銀	銀	銀	船	銀	銀	銀
八	十	十	十	山	十	五	三	船	十	九	六
銀	三	一	一	山	三	三	三	船	三	三	三
銀	錢	錢	錢	山	錢	錢	錢	船	錢	錢	錢

名古屋、龜山間(中等賃金は下等の三倍半)

龜山津間(中等賃金は下等の三倍)

大船横須賀間(上等賃金は下等の三倍)

木	一	清	名	熱	大	大	苧	安	岡	蒲	御	豐	驚	舞	濱
曾	ノ	宮	古	田	高	府	谷	城	崎	郡	油	橋	津	坂	松
川	宮	洲	屋	田	高	府	谷	城	崎	郡	油	橋	津	坂	松
二	百	四	百	二	百	二	二	二	二	二	百	百	百	百	百
四	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
哩	哩	哩	哩	哩	哩	哩	哩	哩	哩	哩	哩	哩	哩	哩	哩
三	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
十	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
四	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀	銀

大府武豐間(上等賃金は下等の三倍)

友岩羽石高神土	宮田相總松六高河
部岡島岡濱立浦	川丸可和坂軒屋清
廿十七哩 廿一哩 廿四哩 廿六哩 廿七哩	廿三哩 廿一哩 十六哩 十三哩 十一哩 八哩
六 十 十 十 十	五 四 三 二 一
銀 銀 銀 銀 銀	銀 銀 銀 銀 銀 銀

小山水戸間  
(中等賃金は下等の二倍半)  
 上等賃金は下等の二倍)

土浦友部間  
(中等賃金は下等の二倍半)  
 上等賃金は下等の二倍)

津	龜關柘深三石草	龜高河四宮桑彌
津、宮川間	山植川雲部津	山宮田市田名宮
廿三哩 廿一哩 十六哩 十三哩 十一哩 八哩	廿二哩 廿一哩 十四哩 九哩 五哩	三十七哩 三十一哩 廿七哩 廿三哩 十九哩 十四哩 十哩
五 四 三 二 一	八 七 六 五 四	十 九 八 七 六 五 四
銀 銀 銀 銀 銀 銀	銀 銀 銀 銀 銀 銀	銀 銀 銀 銀 銀 銀 銀

津、宮川間  
(中等賃金は下等の二倍半)  
 上等賃金は下等の三倍)

草津、龜山間  
(中等賃金は下等の二倍半)  
 上等賃金は下等の三倍)



船	市中	水赤	内友	×尖	笠	福	岩	新	×下	川	×結	×小		
橋	山	戸	塚	原	部	戸	間	原	瀨	治	館	島	城	山
十	八	四	三	三	三	三	廿	廿	十八	十四	十	六	四	
一	四	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢

本所佐倉間(中等賃金は下等の二倍)  
上等賃金は下等の三倍

〔馬車鐵道〕東京市に於ける馬車鐵道線路及び賃金は左の如し

津	幕	千	四	佐
田	張	葉	街	倉
沼	張	業	道	倉
十三	十六	廿一	廿六	三十一
哩	哩	哩	哩	哩
五十二	五十三	六十七	六十六	四十四
銀	銀	銀	銀	銀
十	廿	廿	三	四
七	一	七	十三	十三
錢	錢	錢	錢	錢

●〔線路〕新橋 京橋 日本橋(人形町通) 浅草橋 今川野

埋 〇〔賃錢〕半區域(往復)金二錢 一區域(往復)三錢

一區域半(往復)三錢 二區域(往復)六錢

域半(往復)七錢 三區域(往復)九錢 ▲新橋間(淺草)

三區域ニテ淺草上野間ハ一區域ナリ而シテ上野新橋間ハ亦三區域ナリ

〔航路〕本道中航路の重なるものを舉れば左の如し

東京及上總下總間汽船航路及賃金

東京 越前堀  
上總 水更津 間  
下總 櫻井

上等 三十錢  
下等 廿五錢

(小兒四歲マデハ無賃、  
十二歲マデハ半賃)

東京 越前堀  
下總 濱野間  
下總 千葉、寒川

上等 三十錢  
下等 廿五錢

東京及上總房州湊船航路及賃金

東京 木更津 加知山 船形 間 廿五錢

東京吾妻橋永代橋間湊船賃金

至兩國橋 一錢  
至大橋 一錢五厘

至永代橋

二錢五厘

東京より新波及笹良橋湊船航路並賃金

今井	七錢	野田	廿二錢	古河	廿四錢
行徳	七錢	金ノ井	廿三錢	下ノ宮	廿四錢
市川	十二錢	岡田	廿三錢	野渡	廿四錢
柴又	十四錢	室珠花	廿四錢	新波	廿七錢
松戸	十七錢	關宿	廿四錢	海老瀬	廿七錢
流山	二十錢	栗橋	廿四錢	藤岡	廿七錢
加村	二十錢	堺	廿四錢	笹良	三十錢
新川	廿一錢	中田	廿四錢		

日本郵船會社航路及乘船賃

横濱、四日市、半田間

横濱	
上等	八〇〇〇
中等	三〇〇〇
全往復	五五〇〇
下等	一五〇〇

横濱、小笠原島間

横濱	
上等	一〇〇〇〇
中等	三〇〇〇
全往復	五五〇〇
下等	一五〇〇
三宅島	
上等	一〇〇〇
中等	三〇〇
全往復	五〇〇
下等	一〇〇
八丈島	
上等	一〇〇〇
中等	三〇〇
全往復	五〇〇
下等	一〇〇
鳥島	
上等	一〇〇〇
中等	三〇〇
全往復	五〇〇
下等	一〇〇
小笠原島	
上等	一〇〇〇
中等	三〇〇
全往復	五〇〇
下等	一〇〇
母小笠原島	
上等	一〇〇〇
中等	三〇〇
全往復	五〇〇
下等	一〇〇
硫黄島	
上等	一〇〇〇
中等	三〇〇
全往復	五〇〇
下等	一〇〇

横濱、神戸、琉球間

横濱(通)	
上等	一〇〇〇〇
中等	三〇〇〇
全往復	五五〇〇
下等	一五〇〇
神戸	
上等	一〇〇〇〇
中等	三〇〇〇
全往復	五五〇〇
下等	一五〇〇
鹿兒島	
上等	一〇〇〇
中等	三〇〇
全往復	五〇〇
下等	一〇〇
大島	
上等	一〇〇〇
中等	三〇〇
全往復	五〇〇
下等	一〇〇
琉球	
上等	一〇〇〇
中等	三〇〇
全往復	五〇〇
下等	一〇〇

横濱高知間

高知	
上等	一〇〇〇
中等	三〇〇
全往復	五〇〇
下等	一〇〇
横濱(通)	
上等	一〇〇〇
中等	三〇〇
全往復	五〇〇
下等	一〇〇

人口及風俗 本道の人口は九百四十二萬五千二百四十にして平均一方里の人口三千五百四十五に該當せり

伊賀伊勢は其風俗浮薄巧便にして志摩、尾張、三河、遠江は温厚樸實なり又駿河、甲斐、武藏は豪俠慷慨の風あり安房、上總、下總は素野朴直の性を備へ常陸地方は偏固の傾あり

氣候及地味 本道は北に山脈を負ひ南は太平洋に面するを以て氣候一般に温暖なり而して東京地方は夏季南風多く冬季は北風多し又小笠原島及び伊豆七島地方は炎熱なり

本道は本邦中最も低地の多き地方なるが故に伊勢、尾張、武藏は一般に肥沃にして伊豆、志摩、安房は薄瘠なり其他諸國は概ね肥瘠相半し、伊豆七島及び小笠原島地方も亦瘠瘠肥沃相半せり而して全道の田畑は百六萬八千餘町あり

〔鑛山及物産〕本道の鑛山中石炭坑は武藏の秩父郡及び常陸の大塚村等に在り硫黄坑は相摸の宮城野、箱根及び伊豆の白田、池代等に在り石油坑は遠江の菅ヶ谷等に在り

物産の重なるものは伊賀の伊賀焼、伊勢の茶、萬古燒(桑)、形紙、津縹子、紙、蓑、尾張の七寶燒、瀬戸燒、名古屋扇、米、大根、遠江の椎茸、濱名納豆、石灰、石腦油、三河の石材、木材、木綿、茶、駿河の半紙、芝川海苔、茶、竹器、興津鯛、甲斐の水晶、葡萄、甲斐絹、伊豆の八丈絹、相摸の湯本細工、武藏の淺草海苔、秩父絹、八王子織、川口鑄物、安房の房州砂、上總の鰯、茶、下總の味淋酒、醬油、結城紬、銚子縮、炭、常陸の紙類、水戸蓑、西内紙等なり

東 山 道

〔位置及疆域〕東山道は畿内の東、東海道の北に位し(本道は近江以下下までと奥羽と云ふ)東經百三十六度より百四十二度十三分に至り北緯三十四度四十七分五十一秒より四十一度三十分五十一秒に至る其地西南は東海北陸兩道に隣し西は畿内及び山陰道に隣し東北は太平洋及び日本海に瀕す

〔地勢及面積〕本邦第一の高地は飛騨信濃にして本州の中央部に在り低地は琵琶湖の沿岸美濃、上野、下野三國の南部及び陸前の中央部なり而して奥羽地方は北向して東西に海を控へ北端は津輕海峽を隔てて北海道に對せり此全面積二千六百万方里餘にして本邦八道中最大なるものなり

〔山嶽〕本道中重なる山岳を舉れば甲賀山(高四千九百)は近江の東南隅に在り其北に三上山あり近江富士と稱す伊吹山(高四千四百)は國の東

に峙ちて美濃に跨れり、惠那岳(高七千三百)は美濃の東部に聳へて信濃に跨り其支脈の諸峯は三森水晶等の諸山とす三國嶺は國の西南に峙ちて伊勢近江の國境に跨れり乘鞍岳(高九千)は飛驒の東境に在りて信濃に跨れり其他高山、位山等の諸山あり御嶽山(高九千)は信濃の西部に聳へ美濃、飛驒の國境に跨る赤石山は其高さ一萬二百四十四尺富士山に亞ぐ高山なり駒ヶ岳(高七千八百)は國の中部に聳ゆ其他錫杖岳(高九千二百)マノシ岳(高七千八百)、岩菅山(高七千五百)等の高山あり、碓氷嶺(高二千)は上野の西境に峙ち香妻山(高五千)は國の西北境に聳へ山上に日本武尊を祠る白雲、金鶏、金銅の三峯鼎立す之を總稱して妙義山と云ふ其他榛名山(高二千)等あり、男體山(高八千)は下野の北境に峙ち上野の國境に入れり山脈の分起せるものを大真名子山(高六千)、女貌山(高七千)等とす其他男鹿山(高五千)等の諸山あり、八溝山

(高三千四百)は磐城の西南に峙ち下野及び常陸に跨れる高山なり其他阿伽井岳(高二千)、旭岳等あり、駒ヶ岳は岩代の西南に屹立し上野越後と國疆を劃す高さ七千三百三十尺余あり之に亞ぐ山は懸山(高六百三十)赤安山(高六千四百)香妻山等あり、岩手山(高六千七)一に岩手山と稱し陸中の西隅に在り山上に岩手山神社あり早地峯山(高六千)、酢川岳(高五千)等あり、八甲田山(高六千)は陸奥の中央に峙ちり、月山(高千七)は羽前の中部に在り朝日岳(高六千三)は國の西隅に峙ち又葉山羽黒山共に中央部に在り飯豊山(高六千)は羽前、岩代、越後三國に跨り、太平山、鳥海山等は羽後に在り鳥海山は火山なり、淺間山(高八千三)は信濃の西北隅に聳ゆ此山は天仁元年初めて噴火し天明三年に至りて爆發し爾來噴烟絶へず本邦著名の火山なり、赤城山(高六千三)は建長年間に噴火せしも後ち熄ひ、白根山(高六千)は上野に在り天明三

年淺間山と同時に噴火し明治十五年再び噴煙して赭山と爲れり、那須岳(高六千三)は下野の北境に峙ち應永十五年初めて噴火し全十七年に至り再噴し安政四年又起り明治十四年に至りて鳴動し今尙は絶へず噴煙しつゝあり白根山(高七千九)は明治五年初めて噴火し六七年に至り再び起り二十二年十二月に噴煙鳴動せり、磐梯山(高五千八百)は岩代に在り猪苗代湖の北方に聳ゆ此山は大同元年に破裂して猪苗代湖を生じ明治二十一年七月復た破裂し二里四方を破壊し人口四百、家屋三十六戸を埋没せり又藏王岳は陸前羽後の國境に跨り慶應二年初めて噴火せり、陸前の寒風山は寛保二年に噴火し今日は熄火山なり陸奥の岩木山は天明三年に噴火し今尙は噴煙を絶たず所謂津輕富士是なり

(河流)近江は許多の河流四境の連山より發し皆中央なる琵琶湖に注

ぐを以て大河と稱すべきものなし唯横田川(流程十)愛知川(流程)等を以て巨流と爲すに過ぎず、美濃の揖斐川は伊勢に入りて海に注ぐ流程三十里、長良川は一に黒股川と稱し流程三十二里許、此二流は木曾川の支流なり、飛騨の河川は殊に急流多く益田川は美濃に入り飛騨川と爲り木曾川に合し程流三十一里餘、其他宮川(流程二)、白川(流程)等なり、木曾川は源を信濃に發し西南に向て木曾川山中を流れ水勢急にして岩石多く舟筏を通ずる能はざるも美濃に入り飛騨川に合するに及び水流彌大となり舟筏を通ずるの便あり而して伊勢尾張の間に至りて海に注ぐ其流程四十六里餘、千曲川は源を甲斐に發し信濃に來り犀川と合し(兩川の間と川)越後に入り信濃川と爲る水源より此に至る流程六十里餘、天龍川は源を諏訪湖に發し利根川は源を上野に發し武藏上總の間に入る水源より此に至る流程二十八里餘、

又片品川は利根川に合し流程三十里餘あり、那珂川は源を下野に發し常陸に入り那珂港に注ぐ其流程四十里餘、鬼怒川は下總に入り利根川と合流して海に入る此流程四十一里あり、阿武隈川は磐城に發源し岩代の國境は入り陸前磐城の境に至り海に注ぐ流程五十里餘舟運の便あり陸中に北上川あり國の中央を貫流し南に赴きて陸前に入り石巻港に至て海に注ぐ其流程七十里餘、岩石少く舟運の便多し是れ本邦第二の大河なり、最上川は羽前の南境に發し上流を松川を稱し羽前羽後の境に至り海に入る流程六十二里、水勢頗る急なり是れ日本三急流の一と稱す其他岩代に唯見川、日橋川、陸奥に能代川、羽後に雄物川等あり其流程二十五里以上四十里以下なり

〔海岸及港灣〕本道は奥羽のみ海に瀕し中山道の部分は海に面せず而して其海に瀕する部分と雖も大なる屈曲出入なし今其著名なる港灣

を舉れば石巻港は陸前北上川の河口にして深さ五尋より十二尋に至る、青森港は陸奥に在り、深さ八尋餘に過ぎず其他羽後の酒田港等なり、陸奥に二灣あり一を野邊知灣と云ひ一を青森灣と云ふ野邊知灣とは陸奥の大間岬、龍飛崎と相對し一灣を擁する其大間岬の方を云ひ青森灣とは龍飛崎の方を云ふ又仙臺灣とは陸前の黒崎より西の方を云ふ

〔海峽〕海峽は陸奥に平館海峽あり即ち青森灣の海口なり又松島海峽とは龍飛崎と渡島の白神崎との間を云ふ

〔岬角及島嶼〕黒岬は陸前に在り岬の附近に金華山と稱する嶋嶼あり東南の海灣に數百の島嶼蕃布す彼の著名なる松島是なり、龍飛崎は陸奥に在り津輕海峽に突出して渡島(北海)の白神崎と遙に相對す其間潮流急激舟行極めて危険なり尻屋岬は遙に渡島の惠山岬と相對し

長さ二里余、海中噴礁多し、大間岬は津輕海峡に斗出し小泊崎は陸奥灣に斗出して野邊知灣と青森灣とを分てり、尾崎は陸中に在り突出したるは羽後の入道岬なり

本道の島嶼は陸前の宮戸島(周回四)、金華山島(周回三)、田代島(周回三)、江ノ島(周回一)、野々島(周回一)、寒澤島(周回一)等なり

(湖沼及瀑布)琵琶湖は近江に在り本邦第二の大湖にして周回七十三里七十一間、其下流勢多川となる即ち宇治川の上流たり湖中奥島、沖島、竹生島あり風景絶佳にして近江八景の稱古より噴々たり、大沼は飛驒に在り周回三里餘、諏訪湖は周回四里二十町にして信濃

に在り嚴寒の際には湖面氷結して人馬の往來容易なり其他野尻湖(周回三里)あり、上野に板倉池(周回三里)、尾瀬湖(周回三)あり下野の日

光山中に中禪寺湖(周回八里)あり湖水溢れて瀑布と爲る華嚴瀑是れなり其他周回四里の赤間沼あり、猪苗代湖は周回十六里にして岩代に在り湖中島あり翁島と稱す其他陸前に品井沼(周回五里)、大沼(周回三里)、長沼(周回三)、陸奥に小河原沼(周回十三里)、十輪田湖(周回十里)、鷲架沼(周回六里二十)、十三箇(周回六里)、羽後に八郎瀨(周回十)、田澤瀨(周回三)等あり

養老瀑は美濃の養老山に在り高さ七丈餘、幅二間頗る壯觀なり阿彌陀瀑は三國嶺に懸り高さ六十丈餘、白水瀑は飛驒に在り高さ二百餘丈幅七間、織谷瀑布は高さ百二十丈、青垂瀑は高さ四十五丈餘、然れども其幅皆な間餘に過ぎず、米子瀑は信濃の米子に在り二條あり南に在るを不動瀑と稱し高さ九十丈幅一間一尺、北に在るを權現瀑と稱し高さ六十丈幅一間二尺、而して兩瀑相距ること一町餘、鏡子



● 瀑は上野の荒船山北崖に懸り高さ五十餘餘幅一間餘、華嚴瀑は下野日光山中にあり高さ七十五丈幅十五間にして頗る壯麗なり、裏見瀑は一に阿含瀑と云ひ高さ十丈餘幅三間、其他霧降瀑は飛沫霧の如く數層に注下し高さ三十四丈、幅五間共に壯觀なり其他日光山中には四十有餘の瀑布あり

● (温泉) 信濃の靈泉寺温泉は頗る有名にして其他院内上下、淺間等あり、伊香保、草津の兩温泉は上野に在り皆有名にして兩泉相距ると十三里餘、而して伊香保は東京を距ること三十五里傳へ云ふ此温泉は垂仁天皇の朝發見せりと其他鹿澤、河原、澤渡等の諸泉あり又下野に鹽原、羽前に田川、羽後に大瀧、湯ノ澤等の諸泉あり皆有効なるを以て名聲高し

● (都邑) 岐阜市は美濃に在り現今岐阜縣廳の所在地にして頗る繁華なり

● 此地金華山、養老神社等の遊覽所あり又長良川の鵜飼は一覽の價値あり明治廿四年の大震に全市一變して舊時の觀なし而して此地には各地より通する鐵道あるを以て漫遊に便なり旅舎は玉井屋、天駒屋、津國屋其他數軒あり

● 仙臺市は陸奥に在り現今宮城縣廳の所在地なり此地往昔伊達氏の居城なりしが城趾今尚ほ存して市西廣瀨河畔に在り東北の大都にして繁盛昔日に異ならず經ヶ峯の靈廟、躑躅ヶ岡、青葉神社、其他櫻岡公園、林子平の墓等遊覽所多く數日を重ぬるも見盡す能はず旅舎は國分町に集合し安藤、針生、大泉、齋藤其他數軒あり皆停車場前に支店を置く

● 盛岡市は陸中に在り現今岩手縣廳の所在地にして舊南部氏の城邑なり往昔安倍貞任が厨河の柵、見馴の松、綱張温泉等あり停車場附近

には村田清風館、陸奥館其他數軒の旅店あり又南部富士は西方六里を隔てて見ゆ

弘前市は陸奥に在りて青森縣に屬す商況旺盛なる一都會なり

青森は陸奥に在り青森縣廳の所在地なり此地は津輕海峽を隔てて北海道函館に對し鐵道(鐵道最)あり定期航海船ありて横濱及び函館に來

往す又善知鳥神社、外ヶ濱等の遊覽地あり旅館の重なる者は中島、中村、津島、田澤、宮川等とす

福島は磐城に在り福島縣廳の所在地なり此地板倉氏の舊城市にして信夫文字摺石、北畠顯家の古蹟の遊覽所あり旅亭は上安、松島屋、太田屋等重なるものなり

山形、米澤兩市は陸前に在り山形は現今山形縣廳の在る處なり米澤は山形縣に屬す往昔伊達晴宗此に居り後ち徳川氏時代上杉景勝を此

に封せり此地養蠶業の隆昌を以て著はる

天津は近江に在り現今滋賀縣廳の所在地にして往昔天智天皇の都し

玉ひし處なり其地琵琶湖の南岸に臨み京都を距る三里弱、東海道鐵道の馬場、大谷兩停車場に近く京都には疎水運河の通船あり湖上亦

舟運の便多し大湖汽船會社、湖南汽船會社等あり此地湖上の風色に富み遊覽すべき所少なからず大津町の旅舎中有名なるは小林亭、松坂屋とす

長野は信濃に在り長野縣廳の所在地なり此地は信州第一の都會にして遊覽すべき所多しと雖も首として遊覽すべきは善光寺にて其他遊覽の價値ある神社佛閣多し市中旅舎は甚だ多く長野ホテル、對旭館、藤屋旅店は停車場前に支店あり其外五明館、花房屋、扇屋等を始めとし有名のもの十餘軒あり

彦根 井伊氏の舊城邑にして城址は今公園となれり樂々園には鎗屋、松屋等あり多賀神社は是より二里を隔つ  
 前橋は上野に在り古昔厩橋と稱せり旅客の往來瀕繁にして商況頗る盛んなり東京を距る僅に二十八里餘とす又高崎は中山道の衝に當り最も繁榮なり

宇都宮は下野に在り陸羽及び日光街道の要路にして往來繁く東京を距る二十八里餘、栃木も亦宇都宮に亞ぎ市街繁榮なり、足利は足利氏累世の居城にして足利學校鐵阿寺等の古蹟あり其他羽後に秋田、酒田、大館等あり皆繁榮の地なり

名所、舊蹟、神社、佛閣 近江八景は古來有名にして總て琵琶湖畔に在り三井晚鐘、栗津晴嵐、石山秋月、唐崎夜雨、勢多夕照、比良暮雪、堅田落雁、矢橋歸帆、是れを近江八景と云ふ此風景を見んと

欲せば東海鐵道の馬場停車場より下車すべし

姨捨山は信濃に在り山麓の水田梯形を爲し明月田水に映じて影を分つ田毎の月と稱するは即ち此に起る此勝地は此山に屬す之を見んと欲せば東京、直江津間鐵道線路の阪城驛にて下車すべし

日光は古來著名の地にして下野に在り東照宮、三代將軍の靈屋及び二荒山神社の構造金銀珠玉を鏤め其壯觀天下に比なし庚申山は怪岩奇石を以て著はる登降する者必ず鐵鎖に攀援せざるべからず其他華嚴瀑、裏見瀑、霧降瀑等の雄麗壯觀一片半紙の悉す所に非ず旅舎は金谷ホテル、日光ホテル、新井ホテル、神山、小西屋、紙半、會津屋等數多あり又中禪寺湖水は山中の勝地にして湖畔に泉屋、蔦屋、米屋等あり更に湯本に至れば温泉宿に吉見屋、山田屋、板屋等數軒あり

●松島は陸前に在り數百の島嶼、悉く青松を生じ緑波と相映じ風光明  
 媚日本三景の一と稱せらる又鹽竈は松島に臨み一に千賀の浦と呼ぶ  
 鹽竈神社は停車場の西方五町餘の所に在り此地有名の旅舎は太田  
 屋、海老屋、等にして松島遊覽には是等の旅亭より案内せしむべし  
 其他有名の金華山は當所より二十餘里の海上に見ゆ  
 ●岩切は停車場のある所にして松島鹽竈に通ずる要地なり多賀城趾、  
 ●野田の玉川の遊覽地あり  
 ●一の關には衣川の館、關山、中尊寺、酢川温泉の遊覽地あり又鎮守  
 府の古趾は水澤停車場より一里を距り  
 ●八戸町は南部氏の舊城趾にして小南部と呼ぶ長者山其城趾に接す又  
 ●源判官の遺物館鼻の古蹟あり  
 ●野邊地停車場の北十八九町に馬門と云ふ所あり戊辰の役津輕兵と南  
 部兵と快戦せし所なり

●白川は戊辰戦亂の舊蹟にして旅舎は柳屋内池屋等名あり又感忠銘、

●白川關、甲子温泉等遊覽地多し

●二本松も亦戊辰の戦地にして安達ヶ原の古蹟に近し大和屋、さくの  
 屋は屈指の旅店なり

●大河原停車場の近傍に源三位泰衡の古戰場又栗戸國衡の塚あり遠刈  
 田温泉に近く同地には佐藤、吾妻等の温泉宿あり

●關ヶ原は美濃に在り此地有名の古戰場にして世人の能く知る所なり  
 ●廢物語の里は西一里半程に在り其他美濃の賤ヶ岳、信濃の川中島の

●古戰場、陸前の宮城壺之碑等數多あり今一々列擧するに違わらず  
 ●(沿革)上古東北地方は總て蝦夷地にして王土に歸せざりしなり崇神  
 天皇の朝、皇子豐城命を遣し東國を治めしむ景行天皇の朝、日本武

尊東征して之を征服し國造縣主をして各地を統治せしむ大化の初め  
 國守郡領を置く後藤原秀卿上野下野武藏下總等の守に任せられ安  
 倍頼時陸奥に反す源頼義之を平ぐ家衡及び武衡亂を作す源義家  
 之を討平せり爾後藤原清衡押領使となり奥羽を占領す建武中興の  
 時、義良親王奥羽二州を兼治し新田義貞上野に守護たり足利の末路  
 に及び諸州の豪族並び起り雄を争ふ織田信長之を平定し豊臣氏に至  
 り其功臣及び故領守に分封し徳川氏に及び又變更あり其後幾多の變  
 遷を経、明治維新の際陸奥を割て磐城以下五國と爲し出羽を分ちて  
 羽前羽後の二國と爲し藩を置き後ち更めて現今の縣を置けり  
 (鐵道)本道の鐵道線路は各地より接續すと雖も要するに近江より陸  
 奥の極端に達するものと云ふて可なり今本道内の鐵道線路驛名哩程  
 を左に示す、但し賃金は下等賃金のみを記せり而して公衆電報取扱

所の符號は(×)を用ふ

馬場木曾川間

馬場	草津	野洲	八幡	能登川	彦根	米原	長岡	關原	垂井	大垣	岐阜	木曾川	米原	長濱
	四哩六十九鎖	五哩九十四鎖	五哩三十七鎖	八哩五十七鎖	三哩七十一鎖	六哩六十八鎖	六哩三十五鎖	三哩四十四鎖	五哩五鎖	八哩七十鎖	四哩七十七鎖	三哩五十四鎖	四哩長濱間	四哩五十鎖
	四鎖	五鎖	五鎖	八鎖	三鎖	六鎖	六鎖	三鎖	五鎖	八鎖	四鎖	三鎖	五鎖	五鎖

宇都宮日光間

宇都宮	砥上	鹿沼	文挾	今市	日光	大宮	上尾	桶川	鴻巣	吹上	熊谷	深谷	本庄	新町
	三哩六鎖	五哩廿五鎖	四哩九十八鎖	七哩十六鎖	四哩〇一鎖	大宮前橋間	五哩〇二鎖	二哩廿六鎖	五哩十三鎖	四哩五十四鎖	四哩三十九鎖	七哩十鎖	六哩十五鎖	五哩廿五鎖
	四鎖	十一鎖	十七鎖	廿五鎖	三十鎖									

大新青  
釋城森

中	沼宮内	好摩	盛岡	日詰	石鳥谷	花巻	黒澤尻	水澤	前澤	一ノ関	花泉	石越	瀨峰
七哩六十九銀	六哩六十六銀	十二哩九十九銀	十一哩五十五銀	三哩三十四銀	七哩九	七哩七十六銀	十哩七十五銀	六哩三十七銀	九哩十九銀	七哩六十八銀	四哩九十六銀	九哩五十二銀	七哩四十四銀

▲青森碓ヶ關間

青森	浦町	野内	淺蟲	小湊	野邊地	沼崎	下田	尻内	三戸	福岡	一月	小鳥谷
一哩六十六銀	四哩六十八銀	三哩二十一銀	六哩二十九銀	十哩六十五銀	十三哩十二銀	十二哩七十一銀	六哩九十銀	十二哩六十八銀	十一哩三十二銀	三哩九十二銀	二哩八十五銀	九哩五十九銀

(青森より)

三哩四十銀  
十哩六十銀

高崎  
前橋

六哩五十銀  
六哩十一銀

岩切  
鹽竈

岩切鹽竈間  
四哩廿九銀 四銀

▲宇都宮青森間

二本松	本宮	郡山	須賀川	矢吹	白河	豐原	黒田原	黒磯	西那須野	矢板	長久保	古田	宇都宮
五哩九十九銀	八哩七十九銀	七哩十九銀	七哩十五銀	九哩三十一銀	六哩十五銀	四哩九十九銀	五哩四十一銀	七哩十銀	六哩廿四銀	七哩〇六銀	四哩三十九銀	六哩四十七銀	六哩四十七銀

小牛田	鹿島	松島	岩切	仙臺	増田	岩沼	槻木	大河原	白石	越前	桑折	福島	松川
五哩七十五銀	六哩五十銀	九哩八十八銀	四哩九十八銀	六哩四十七銀	四哩四十七銀	四哩五銀	四哩七十九銀	八哩十九銀	五哩十銀	七哩八十九銀	八哩二十五銀	八哩二十七銀	五哩六十九銀

浪 岡 十三哩六十鎖  
 川 邊 十九哩二十鎖  
 弘 前 二十三哩二十鎖  
 大 鰯 三十哩六十鎖  
 碓 ヶ 関 三十五哩六十鎖

〔航路〕本道沿岸及近海に於る日本郵船株式會社の航路及び旅客乗船賃は左の如し

荻ノ濱鹽竈間

鹽竈	上	二五〇
下	等	二五〇

青森函館室蘭間

青森	上	二五〇
下	等	二五〇
函館	上	二五〇
下	等	二五〇
室蘭		二五〇

〔人口及風俗〕本道の人口は四百二十三萬二千六百五十一、平均一万里の人口は千六百二十六に該當せり

本道の風俗を舉んに近江は伶俐にして商業に長じ美濃は淳直にして

勇氣あり飛騨信濃は頑樸にして忍耐力あり上野下野は稍々捷黠の傾きあり仙臺地方は聊か浮薄に流るゝの弊あり其他の諸國は概ね野鄙撲陋なるが如し

〔氣候及地味〕本道は西南より東北に延長して其兩極端の距離甚だ遠きにより氣候も亦著しく異なれり中山道に於ける低地は概ね温暖にして殊に近江美濃の地方の如き其最たるものなり然れども信濃飛騨に至りては寒氣甚だしく其他陸奥、陸中、羽後地方は寒地にして就中秋田青森は積雪丈餘に至れり

本道の地味は近江、美濃、陸前及び上野の東南部は頗る肥沃にして其他の諸國は概ね肥瘠相半せり而して全道の田畑は百廿五萬七千二百餘町あり

〔鑛山及物産〕本道に於ける銅坑は近江の石部、美濃の畑佐、飛騨

の蛇腹谷、東湊山村、取切山、下野の足尾、陸中の尾去、羽後の阿仁等を以て其重なるものとす、銀坑は飛騨の和佐保、鹿間、岩代の輕井澤、半田、陸中の小坂、陸奥の湯澤山、羽後の院内、阿仁等にあり、石炭坑は磐城の白水に總て十ヶ所あり本道中石炭の産出多量なるは磐城を以て第一とす鐵坑は信濃の替佐、上野の中小坂、磐城の上手岡、陸前の吉田、花山等にあり金坑は陸前の長崎及び戸倉等にして陶土坑は美濃の土岐、惠那兩郡、信濃の本條岡田等に在り本道に於ける物産の重なるものは近江の長濱縮緬、絹縮、帷子地、茶、曝布、源五郎餅、美濃の紙、岐阜提燈、養老酒、羽二重、紋縮緬、飛騨の絹布、水松細工、漆、熊皮、信濃の生絲、蠶卵紙、上田編、更科蕎麥、上野及び下野の生絲、織物、茶、苺、磐城の相馬砂燒、長、岩代の漆器、銅器、信夫摺、會津蠟燭、陸前の仙臺平、埋

木、氣仙行李、魚油、海參、陸中の生絲、南部縮緬、眞綿、馬、陸奥の鐵物、漆器、木材、魚類、陸前の米澤織、最上紅花、羽後の塗物、木材、畝織、曲物、秋田蓆等にして水産物も亦多し

北 陸 道

〔位置及疆域〕北陸道は本土の西北端に位し東經百三十五度四十三分より百四十度に至り北緯三十五度十八分より三十八度三十三分に至る其地西は山陰道に界し東南は東山道の背後に接し西北一帯は日本海に面す

〔地勢及面積〕本道は西南より斜めに東北に亘り東南部は山脈蜿蜒として連亘し其支脈分れて道内の國境を爲せり河流は大抵東山道地方より來りて日本海に注入す又東南は總て高地にして險峻の處多きも



信濃川下流の地は低下して長さ凡そ十三里餘、幅六七里餘の間は耕地相連れり此全面積凡そ千五百三十四方里餘あり

山嶽本道は山嶽多く且つ高峻なるものに富めり蓮華山は一に朝日岳と稱し越後の西南境に峙ち越中信濃に跨り分れて數峰となる就中

大蓮華山(高九千八百)及び蓮華山(高九千六百)最も高峻なり大日岳(高千九百六)は國の東隅に峙ち其支派に烏帽子山(高三千)蒜場山(高三千)等

あり御神樂山(高三千)は岩代に跨り飯豊山は羽前、岩代兩國に亘り其

他米山、御月山、苗場山等も亦高山なり白山は加賀の東南隅に聳へ高き八千九百四十七尺にして越前、美濃、飛騨三國に跨り天文十六

年始めて噴火した後二回にして熄む此山は常に白雪を頂けり故に白山と稱せりと云ふ立山(高五千)は越中の東南隅に聳へ天保七年噴火し山中火坑許多にして硫烟を噴出せり又越後の南隅に峙てる妙香山も亦

噴火山なり

河流水本道第二の大河信濃川は越後に在り筑摩川は犀川の下流にして信濃より來り國の中央を貫流し海に注ぐ其流程百里餘、九頭龍川

は源を越前の東隅に發し日野川と合し漸く巨流となりて坂井港に注ぐ其流程凡そ三十二里餘、手取川は源を加賀の東南部に發し國の中

央を貫流して海に入る其流程二十餘里、越中に河流の大なるもの二あり神通、射水の兩河是なり共に源を飛騨の山間に發し神通川は流

程三十里餘、射水川は四十里許あり其他流程二十里餘の黒部、常願の二川あり又越後に阿賀川あり源を岩代に發し國の東境に入り遂に

海に注ぐ其流程四十五里餘あり

海岸及港灣本道の海岸線は六十餘里なるも著大なる屈曲出入なく唯若狹、越前、能登に少しの灣入あるのみ故に沿岸に良港と稱す

べさものなし此海岸線中小濱港は若狹に在り松崎及び赤礁岬相對して海口を爲す北海航行の船舶概ね此に寄泊せり敦賀、坂井の兩港は越前に在り敦賀港は深さ四十餘呎にして瀛船帆船の出入多し、七尾港は能登に在りて北海の要港なり金崎港は近海中最良の港にして船舶輻輳せり新瀉港は越後に在り天保年間奉行所なりしが明治の初め外國互市場と爲し本邦五港の一に加ふ然れども港内水淺くして大船巨船の碇繋に便ならず且つ冬季は北風強く波濤高きを以て寄泊する船舶なく甚だ寂寞たる有様なり灣の重なるものは能登の東部に在る七尾灣にして灣の中央に能登島あり此島を以て灣口兩分せり

〔岬角〕本道に於ける岬角の重なるものは若狹の松崎、赤礁崎、越前の越前岬、立石崎、能登の珠洲岬等なり松崎は海中に突出すること四十餘呎、珠洲岬は東に突出して遙に佐渡と相對し岬の附近岩礁多

く 北海岸中第一の危険なる所なり

〔島嶼〕佐渡は本道の東北日本海中に位し東經百三十八度二十四分より五十分に至り北緯三十七度四十八分十七秒より三十八度十八分十七秒に至り其周回五十三里餘地勢は南北に長く東西に短し島の西北部に金北山あり高さ四千尺余其他金剛山、五月雨山等あり河流は流程六里餘の國府川、毛毛川等其重なるものなり本島に二大岬あり鷺崎、澤崎是なり鷺崎は東北の海上に突出して山津山嘴と相對して一灣を爲し澤崎は西南に突出して春日崎と相對して灣を爲す此に赤泊小木の二港あり共に船舶の寄泊に便なり、全島は土壤平夷にして且つ肥沃、沿海は海産物多し

能登島は能登の七尾灣中に位する一島にして灣口を兩分し北を大口峽と云ひ南を小口峽と云ふ全島の東西三里余、南北一里十八町餘、

周回十四里二十町餘あり其附近に數十の島嶼散布せり島内の居民は製鹽を以て業と爲す其他一里以上の島嶼三四あり

若狹の御神島は周回一里餘、能登の舳倉島は周回一里許又七島あり其最大なるものを大島と稱す

粟生島は越後の北端に在り周回四里餘に過ぎず其他本道の沿岸に小島あるも今一々列擧するに違わらず

〔湖沼及瀑布〕本道に於ける湖沼の最も大なるものは越前の北濁入江〔周回五里〕にして加賀に亘れり次は加賀の河北入江〔周回六里〕、柴

山湖〔周回三里〕、能登の邑智湖〔周回三里〕、越後の福島湖〔周回三里〕、加賀の今江湖〔周回二里〕、若狹の三方湖〔周回二里〕、等にして三方湖は三

湖相連れり  
本道中瀑布の大なるものは千俣瀑にして加賀の能美郡に在り其高さ

凡そ二百丈許 本道瀑布中第一の壯觀なり稱名瀑は越中の早乙女岳に在り高百丈餘幅十間、布引瀑は越後の守間岳に在り高さ百二十丈

余、幅二間、不動瀑は高さ七十五丈餘、幅七間許、其他能登の寶達山中に梅見瀑あり頗る壯觀なりといふ

〔都邑〕福井市は越前に在り天正年間柴田勝家の居りし處にして現今は福井縣廳の所在地なり故を以て市街繁盛を極む

金澤市は加賀の東北隅に位し此地前田氏の舊城下にして現今は第三師團第六旅團及び石川縣廳を置かれ商況旺盛、其繁華名古屋に亞

と本道第一の都市と稱す  
富山市は越中に在り舊前田利長の支封にして今は富山縣廳の所在地

なり此地商況盛んなるのみならず賣藥商の多きを以て其名海内に著はる而して高岡も亦市制を布きたる處にして商業旺盛なり

新潟市は越後に在り本邦五港の一にして新潟縣廳税關等ありて頗る繁盛なる貿易場なり港内水深からずと雖も水陸の便極めて善く隨て内外の物貨輻輳し商況甚だ昌んなり

七尾は能登七尾灣の南岸にあり此地七尾の良港あるを以て商況頗る盛んなり

敦賀は北海の良港にして三千餘戸の人家を保ち東北福井市を控へ又金崎に近し頗る繁榮の地なり

直江津は新潟市の南三十里半に在り春日山城址、國分寺等の遊覽所あり此地近來年を逐ふて繁榮し旅客常に集散すること夥し旅館は松葉館、古川屋、直瀨館等あり而して此地と敦賀は鐵道あるを以て旅行に頗る便なり

名所、舊跡、神社、佛閣有名なる親不知の險は越中越後の國境に在り斷崖の下僅に通路ありて崖腹に洞穴を穿てり是れ激浪來る時避くる所にして此に臨めば其危險謂ふ可らず

越前の金崎近傍なる愛宕山は新田義貞が據りし古城址のある所にして山上より金崎全市の風景を一覽し得べし此地は米原より來る鐵道あり港内は漁船帆船出入多し旅舎は大黒屋、米市屋と云ふ漁船問屋あり

越前の藤島には新田義貞を祀れる別格官幣社なる藤島神社あり

佐渡の相川は島中第一の繁華にして小木河原田等の名邑あり此附近に順德天皇を奉葬せる眞野の山陵あり

其他加賀及び越中に跨れる彌波山の南に當り有名なる俱利伽羅谷の古戰場あり

〔沿革〕上古は若狹佐渡を除くの外總て越と稱して蝦夷地たりしが後



〔人口及風俗〕本道の人口は三百八十二萬八千三百七十一して平均一方里の人口は二千四百廿六に該當せり

本道の風俗は若狹は横直にして能登越中も亦之に似たり越前は懸懸にして加賀は優柔偏執なり越後は稍々柔惰の風あり

〔氣候及地味〕本道は東南に山を負ひ西北は海に面するを以て冬季は寒威凛烈又降雪頗る多く地上に堆積すること大餘に及び行路殊に難

				三國
				敦賀
				下上
			金石	下上
			伏木	下上
		直江津	下上	
	新潟			
佐渡				

三國 新潟 間航路及乗船賃

〔航路〕本道沿岸諸港には日本郵船會社海船の寄港するものあり今其航路及び乗船賃を掲ぐれば左の如し

金	敦	正	柳	中	木	井	高	長	米	直	高	新	關	田
ヶ			ヶ	ノ	ノ	ノ	月	濱	原	江	田	井	山	口
崎	賀	田	瀬	郷	本	口				津	田	井	山	口
三十一哩十銀	三十哩廿三銀	廿六哩十四銀	十九哩五十五銀	十六哩六十二哩	十三哩七十一銀	十二哩十八銀	十一哩廿五銀	四哩五十銀		百十七哩十銀	百十一哩二十六銀	百六哩四十五銀	九十八哩六十九銀	九十哩三十六銀
三十五銀	三十五銀	廿九銀	廿二銀	十九銀	十五銀	十四銀	十三銀	五銀						

米原金崎間支線(此線路は米原より東海道に分岐す)

し就中越後の高田附近は最も甚しとす佐渡も亦寒冷酷烈にして風濤常に惡し

本道の地味は肥瘠常ならず越前越後の平野は肥沃にして若狹、能登は甚だ薄瘠なり其他諸國に至ては肥瘠相半するものゝ如し而して本道の田畑は四十五萬五千六百餘町あり

〔鑛山及物産〕本道の鑛山は佐渡の金北山及び羽田を以て第一とす當に本道のみならず本邦に冠絶せり就中金北山の金銀坑は其發見最も古く採出の多量なる亦諸鑛山に冠たり其他金坑は加賀の金平、越中の松倉、越後の高根等にして銀坑は越前の面谷山及び越後の蒲原郡等なり銅坑は加賀の能美郡に十ヶ所及び越後の鹿瀬等にあり石油坑は越後の北蒲原に九ヶ所、中蒲原郡に十六ヶ所、東西頸城郡共に十ヶ所其他十數ヶ所あり鉛坑も亦此地方に多し

山陰道

本道に於ける物産の重なるものは若狹に若狹塗、厚紙、葛粉、藍、茶、生絲等あり越前に奉書紬、布、越前奉書、茶、蓑、雲丹等あり加賀に九谷焼、金澤象眼細工、加賀絹、等あり能登に輪島塗、布、等あり越中に銅器、鐵器、機留編等あり越後に縮布、清好平絹、石腦油等あり、佐渡に金銀、鑄物細工等あり其他海産物は至る所に多し

〔位置及疆域〕本道は山陽道と同く本土の西部に延長し東經百三十二度五十五分より百三十六度に至り北緯三十四度十八分より三十五度四十八分に至る其他東は北陸東山の二道に疆し東南の一部畿内に接し南は山陽道に依附し北は日本海に臨む

〔地勢及面積〕本道の地勢は南部は山を負ひ北部は海に瀕するを以て南より北に低下して漸く平かなり唯丹波は海に瀕せず山多くして平坦の土地稀れなり此全面積は千〇八十七方里餘あり

〔山嶽〕大江山(高三千七)は丹波の北境に峙ち往昔酒類童子の居りし處と云ひ今尙ほ其古跡を存せり大山(高五千八百)は伯耆の西南部に聳へ

中國(山陰山陽兩)第一の高山にして其北に船上山あり三瓶山(高三千八百)は石見出雲の國境に聳へ氷山は但馬因幡の兩國に跨り其他丹後に由

良嶽あり所謂丹後富士是なり

〔河流〕保津川は二源あり一は山城に發し一は丹波に發し二流相會して大堰川と爲り山城に入りて桂川と稱し淀川と合す流程五十五里餘

由良川は源を丹波に發し丹後に入りて由良港に注ぐ其流程三十里餘

江川は一に石見川と稱し源を石見安藝の國境より發し備後に入り石

見に至り遂に日本海に注ぐ流程五十里餘にして舟筏の通ずる所幾んど二十里餘本道第一の大河と稱す其他石見の高津川(流程三)、但馬の

朝來川(流程十)、因幡の千代川(流程十)、伯耆の日野川(流程十)、出雲の大川(流程二)、神門川(流程十)、等あり

〔海岸及港灣〕本道の海岸は屈曲出入甚た少なく隨て著大なるものなし丹後の舞鶴港は深さ八尋餘あり宮津港は港内水深く船舶の寄泊に便なるを以て北海航行の船舶は概ね此に碇繋し春期を待ちて出帆するを常と爲せり伯耆の境港は本道西部の良港にして漁船帆船の

出入多し隱岐の西郷港は深さ十尋あり島中第一の良港と稱す其他但馬の諸寄港、因幡の加露港、伯耆の米子浦、出雲の美保關、石見の大浦等あり、海灣の大なるものは丹後の成生岬及び鷺岬の間の與謝浦、伯耆の赤崎より西南に屈曲し中海の東より北に突出せる地藏崎



ありて一小灣を爲せり

〔神角〕本道の重なる岬角は成生岬丹後に在り其西に突出するを黒崎と云ふ長さ一里十餘町、又鷲崎は突出すること十五町にして其西北

に經岬あり岩礁激浪の間に散布し舟行頗る危険なり出雲の美保關の東に地藏岬あり突出するを十町餘尤も危険なる所とす其他多古鼻、

十六島鼻等あり

〔島嶼〕本道中重なる島嶼は丹後に冠島、小島、毛島あり但馬に津居山島あり出雲に大根島〔周回三〕石見に高島あり、隱岐は出雲の西北に

位し東經百三十三度十分より全三十八分に至り北緯三十五度五十八分より三十六度二十一分に至る四島及び七十餘の小嶼より成る

〔湖沼及瀑布〕本道の重なる湖沼は因幡に湖山池〔周回三里〕あり中央に青島と稱する一小島ありて大に風致を副ふ東郷池は伯耆にあり周回

二里餘に過ぎざれども鰻魚の産出を以て名著はる中海は雲伯の境界なる海濱に在り一方海に通ずる大湖にして周回十六里十七町其他〔道湖〕〔周回十〕、神西湖〔周回一〕等皆出雲に在り

布引瀑は丹後の與謝郡に在り其狀恰も白布を垂るゝが如く其高さ二百七十丈餘幅五間餘あり深山瀑は常に涸渴して注下せざるも降雨

の際は激奔して瀑布を爲せり猿尾瀑は但馬の妙見山麓に在り其高さ三十丈許、天瀑は筏村の山間に在りて高さ四十丈餘あり

〔温泉〕湯島湯は但馬に在り養老年間の發見に係る此地山水明媚なるを以て浴客常に多し吉岡湯は因幡に在り有福湯は石見に在り此地群

峯の間に在りて行歩頗る難さも入浴する者常に群集せり其他丹波に

木津泉、伯耆に山田、三朝、引地、因幡に勝見、岩井、出雲に三澤、牛尾、玉造等の諸泉あり

〔都邑〕鳥取市は因幡に在り現今鳥取縣廳の所在地にして舊池田侯の城市なり

松江市は出雲に在り現今島根縣廳の所在地にして舊松平氏の城邑なり其地宍道湖の東邊に位し湖上の風色頗る善し商況の隆盛なること本道第一と稱す

其他本道の名邑は丹波に龜岡、福知山あり丹後の宮津は丹後に在り興謝海に臨み商業頗る繁盛なり舞鶴は宮津を距る六里餘にして若狹に通する要路なり而して此地は未來の軍港にして實に我國の要鎮とす其他但馬の豊岡、伯耆の米子、出雲の杵築、石見の濱田、大森等の名邑少なからず

〔名所、舊跡、神社、佛閣〕日本三景の一と稱せらるる天橋立は丹後に在り興謝海に突出したる一帯の沙洲にして長さ二十五町餘、白砂

青松 縁波と相映じ其風景畫も亦及ばず筆墨の能く其彷彿を寫すを得ざるなり彼の陸前の松島、安藝の嚴島及び此天橋立の三者を日本三景と稱す出雲の杵築に出雲大社あり大國主神を奉祀す其地後に山を負ひ前に海を擁し翠樹の影海波に映じ風光頗る絶佳なり二位石船は因幡に在り此遺趾は平氏壇浦に敗れたる時二位局安徳天皇を奉じ此地に逃れ天命を全ふして死せり即ち其墳墓なりと云ふ又其近傍に梶原橋と稱する土橋あり梶原景季二位局を追跡して來りし時架設したるものなりと傳ふ隱岐の中島は承久の亂、後鳥羽天皇の蒙塵し給ひし所なり西島には後醍醐天皇行宮の趾あり伯耆の山市場に後醍醐天皇駐蹕の寺院あり此寺院の庭園に栗木あり其結ふ所の栗實は悉く齒痕の如き者をとむ是れ天皇御齒の痕なりと傳ふ本道は中世以後群雄割據したるを以て古蹟少なからず丹波に龜山城趾あり因幡に

鳥取城址あり伯耆の船上山は名和長年が後醍醐天皇を奉じて賊を撃退せし處なり

〔沿革〕本道の沿革を按ずるに神代に於ては大己貴命出雲に鎮し四方を服し玉へり爾後崇神天皇の朝、道主命をして治めしめ大化改新に及び國司郡領を置き建武中興の時源忠顯丹波の國司に任じ名和長年國司兼守護となり因幡を兼治す足利氏に至り仁木以下の諸氏を以て諸國の守護と爲す是より後尼子經久出雲伯耆石見備中備後安藝隱岐の數國を奪ひ元祿年間義久に至り毛利氏の爲めに亡ぼさる徳川氏の時功臣を分封し明治維新に至り藩を置き已にして之を廢し現今の縣を置く

〔鐵道及航路〕本道の鐵道は僅々三十二哩にして播但鐵道を稱し但馬の生野より長谷、寺前、鶴居、甘地、福崎、香呂、野里を経て姫路

及び飾磨に達するものなり其各驛の哩程及び賃金等は山陽道誌の鐵道の部に詳出せるを以て茲に之を略す航路は伯耆の境港より温泉津、濱田、江崎、萩、馬關、門司、多度津、神戸、大阪に至る定期航海船あり其乗船賃等の詳細は畿内誌中に在り

〔人口及風俗〕本道の人口は百八十一萬三千九百十二にして平均一方里の人口は一千六百六十八に該當せり

風俗は概して樸野温厚なり而して丹波、丹後、因幡の如きは固陋の傾きありて但馬は稍と淳樸なり出雲は聊か柔靡の風あり隱岐は陋愚なるに似たり

〔氣候及地味〕本道は南方は山脈を負ひ北方は海に面するを以て氣候殊に寒冽にして降雪多く且つ其期長し

地味は總て薄瘠にして肥沃と稱すべき地方なし然れども伯耆の西北

部のみ僅に肥沃なり而して本道の田畑は十八萬六千三百餘町あり  
 (鑛山及物産) 本道の鑛山中最も著名なるは生野の銀坑にして但馬  
 の朝來郡生野に在り銅坑は丹波の天田郡富垣、氷上郡三原、西谷等、  
 及び丹後の加佐郡池の内下宿、伯耆の會見郡堂谷山、日野郡間地山、  
 吉近山、井原山、出雲の意宇郡出雲郷村、神門郡其他石見の鹿足郡  
 美濃郡等なり鐵坑は伯耆の日野郡根雨にあり石炭坑は出雲の意宇郡  
 矢田に在り又鉛、陶土等は各地より産出す  
 物産の主要たるものは丹波の煙草、茶、丹後の縮緬、但馬の金銀、  
 出石の陶器、豊岡の柳行李、因幡の白珊瑚、紙、伯耆の木綿、鐵、  
 出雲の密柑、人參、十六島海苔、石見の銀、鐵、半紙、隱岐の材木  
 等にして其他蠟、漆、等は處々より産出し水産物は松江の鱈、伯耆  
 の東郷池鰻尤も有名なり

山陽道

(位置及疆域) 山陽道は一帶の山脈に依て山陰道と接し内海に臨み東  
 經百三十一度五分より百三十五度十八分に至り北緯三十三度四十八  
 分より三十五度二十分に至る其地は畿内に接し南は内海に臨みて四  
 國、九州と相對し西北の一隅は日本海に瀕す  
 (地勢及面積) 本道の地勢は山陰道と并行して西南に延き美作を除く  
 の外爾餘の諸國は皆海に臨めり此全面積千五百七十七方里餘あり  
 (山嶽) 本道の山脈は渾て北境に在りて東西に蜿蜒たり然れども此山  
 脈は皆山陰道の餘脈に過ぎざるを以て著大なる山嶽なし今其著名な  
 るものを擧ぐれば播磨の北部に雪彦山(高三千四百尺)、笠形山(高三千)あり又  
 國の西隅に白旗山等あり美作の東北境に那岐山、伯耆に跨れる蛭山

あり備前の熊山は高さ千七百尺余にして國中第一の高山なり備中の

赤瀧山、劍山、備後の中部に峙てる御神山等に過ぎず

〔河流〕播磨の加古川(又龍野川)は源を丹波に發し流程二十八里餘、揖

保川は源を播磨に發し流程十五里餘、千種川も亦十五里餘あり以上

の河流は皆内海に注げり、東大川は源を美作に發し備前に入り遂に

内海に注ぐ此流程凡そ三十里餘、西大川又旭川と云ふ源を美作の山

中に發し備前に入りて内海に注ぐ其流程三十七里餘、水勢奔激して

巖石に觸ると處最も奇觀なり河邊川は備中第一の大河なるを以て單

に大川と稱す其流程凡そ二十八里餘、安藝の太田川(又八木川)は下流

數派に分れて海に注ぐ其流程凡て二十三里余、周防の岩國川は二派

に分れて共に海に入る其流程二十四里余にして彼の著名なる錦帯橋

は此川に架せらる厚東川は長門に在り一に廣瀬川と稱す西南流して

海に入る此流程凡そ十四里餘、其他細流あるも一々列挙するに遑わ

らず

〔海岸及港灣〕本道の海岸は山陰道に反して屈曲出入頗る多きも大

なるものに至ては幾んど稀なり而して備後の尾道、鞆津兩港は碇繋

に便なるを以て船舶常に輻輳し安藝に宇品、吳兩港あり吳港は第二

海軍區にして吳鎮守府あり三田尻港は周防に在り船舶の寄泊多し赤

間關は又下の關と稱し長門に在り瀬戸内海の口を扼し其繁華五港に

亞ぐ其他播磨に明石、室津、坂越、備前に大多府、日比、備中に笠

岡、玉島等の諸港あり、而して瀬戸内海とは本道と四國九州との間

に在る海と云ひ播磨附近の海を播磨灘と云ひ備中備後の沿海を水島

灘と云ひ周防と豊前、豊後の中間を周防灘と云ふ兒島灣の如きは能

く人の知る所なり(諸港の詳細は次に記すべし)

岬角及海峡(本道に於ける岬角の著名なるものは備後に阿武兔岬あり安藝の石瀬崎は海上に突出すること一町余、周防に赤石崎あり高山、川尻の兩岬は長門の北海岸に在り、海峡は播磨の明石と淡路の松尾崎との間を明石海峡と稱し大阪灣に通ぜり大島海峡は周防と大島との間を稱し舟行の危険なる阿波の鳴戸に亞ぐ赤間關海峡は長門と豊前との間を云ふ東口を速瀬瀬戸と稱し是亦舟行の危険なる所なり

島嶼(本道に於ける島嶼中、人口千人以上に及ぶものは播磨に家嶋(四里)、西島(五里)、男鹿島、坊勢島(共に周)あり備前に鹿久居島(七里)、長島(四里)、鴻島、石島、前島(共に周)あり備中に北木島(五里)、神島(四里)、白石島、真鍋島(共に周)あり備後に因島(十里)、向島(七里)、田島(四里)、其他周回二里余の菱島、走島、横島、百島、岩島あり安藝に

大崎上島(周回十)、大崎下島(周回五)、倉橋島(周回廿)、能美島(周回十)、生口島(周回六里)、江田島(周回八里、現今、殿島(周回七)、佐木島、生野島、黒神島あり共に周回三里余、周防に大島(又屋伏島云ふ)、上の關島(周回九)、笠戸島(周回九)、平島(周回七)其他周回四里余の大津島、屋島、三里余の向島、祝島あり長門に青海島(周回九)、見島(周回四)、角島(周回三)、蓋井島(周回二)と二里余の相島等あり

湖沼及瀑布(本道には湖沼の大なるものなく周回三里以上のものは唯長門の常盤池あるのみ其他備前の大池、周防の長澤池等は周回一里餘に過ぎず、瀑布の著名なるものは播磨大田瀑布、美作の岩井瀑、神庭瀑、備後の那智瀑、常青瀑、安藝の二河瀑、等にして大田瀑布は高さ三十丈余、幅三間許、岩井瀑は高さ百八十丈余、幅四間頗る壯觀なり神庭瀑は高さ三十六丈余、幅八間許にし亦奇觀なりと

云々那智瀑は高さ六十五丈余、幅一間あり常青瀑は三層を爲し上層  
高は二十二丈、中層二十三丈、下層七丈餘、幅は總て六間あり二河瀑  
は雌雄二條あり雌瀑は高二十四丈余、雄瀑は十八丈余あり

〔温泉〕本道の温泉にして有名なるものは播磨の瀧湯、湯谷、美作の

湯原、奥津、湯郷備前の三石泉、備中の高末、上熊谷、備後の油木、

矢野、安藝の湯山、有留、周防の湯本、長門の湯本等にして美作の

湯郷温泉は樽に入れて各地に輸送し浴用に供せり大阪京都等に鷺湯

と稱するものは即ちこれなり

〔都邑〕姫路市は播磨に在り中國及び西國より京都に通ずる要路にし

て白鷺城の天主閣は屹然市北に聳へ本願寺別院龜山本徳寺船場本徳

寺、山陽鐵道の停車場あり市街頗る繁盛なり

岡山市は備前に在り舊池田侯の城市にして現今岡山縣廳の所在地な

り故を以て市街繁盛、俗に西の大阪と稱す殊に日本三大公園の一な

る後樂園あり其風致清絶佳麗一覽すべし價值を存す備前備中の兩吉

備津神社、高松城水攻の遺趾は二時間にして往復するを得べし當市

の重なる旅舎は三好野花壇、全本店、自由舎、魚嘉、常盤屋等屈指

にして其他數軒あり而して當市内に山陽鐵道停車場あり此より乗車

せば東は大坂、京都、東京、等に至るべく西は廣島に達すべし

廣島市は安藝に在り淺野侯の舊城市にして藝州第一の都會なり此地

廣島縣廳、第五師團等あり殊に日清戰爭の際、東京より大本營を移

し玉ひし所なるを以て其繁華大阪に亞ぐ市中遊覽すべし所少なから

ず就中廣島城、廣島公園、白神社等遊覽の價値あり旅店は吉川、長

沼、三好、浦口、神保、中野、ヨシ川、澁谷、岩田屋等其最も重な

るものなり此地山陽鐵道の停車場あり此より乗車せば大阪京都東京

等に至るを得べし

赤間關市は長門に在り下ノ關又は馬關と稱し國の西南端に位し一葦の海水を隔て、豊前の門司關と相對す實に我邦西門の咽喉たり東は早柄の瀬戸を以て暴風の難を凌ぎ西は彦島に據て玄洋の巨濤を防ぎ後は丘陵を負ひ前は硯海に臨み港内水深くして大船巨舶を泊するに便なり煤煙空を掠めて去り瀛宙丘に響きて來る其他白帆の往來するもの間斷あることなし廣瀬旭莊が千帆纒去千帆到、此は山陽小浪華と吟じたるは虚構ならざるを知らん此地は山口縣第一の市聚にして大阪を距ること二百九十二海里、瀛船にて二十九時間に達すべし

●明石は播磨の南十里に在り此地に有名なる人丸神社は山陽鐵道の明石驛停車場より五六丁なる舊城址接續の丘陵に在り淡路島と相對し

眺望絶佳なり明石海水温泉は衝濤館と集望閣にして旅舎の有名なるは恵比須屋、橋本屋等なり

●播磨の赤穂は山陽鐵道那波驛停車場の西南二里二十町にして四十七義士の墳墓、大石氏の宅址あり旅店は山野屋、瓢箪屋等なり

●津山は美作の中央津山川に沿ひたる市街にして松平氏の舊城邑なり其他東に倉敷、西に久世等の一市邑あり

●尾の道は備後國御調郡の東南海岸に在る繁華の市聚にして大寶愛宕の諸山其後に峙ち向島其前に横はり港内波浪穩かにして瀛船帆船の出入繁く常に煤煙空を蔽ひ帆檣林立し觀望甚だ佳なり其大阪を距る百二十七海里餘、瀛船は十二時間餘にして達すべし

●鞆津は備後國沼隈郡の東南端に在り此地港内波靜かにして船舶の寄泊するもの多し其前なる三津島、津輕島、狐崎其東なる仙醉島、辨



天島、其西なる阿武菟岬等を望めば布置の巧妙なる風景の絶佳なる他に比類を見ず其大阪を距る百十四海里瀛船にて十一時間餘に達すべし

竹原は備後國加茂郡の東南端、成井川の海口に在りて東は阿波島を望み南は生野島に對す此地は頼山陽の郷里にして翠色常に白波に映じ眺望甚だ佳なり其大阪を距る百四十三海里瀛船にて十四時間餘に達すべし

吳は安藝の安藝郡に在り舊南端數村の總稱なりしが明治十九年軍港たりしより頓に有名の地とはなれり戸口に増加し駁々として益々繁盛に赴かんとするの勢あり前は鳥小島を控き西は江田島、南は倉橋島と相對し一大灣を爲す江田島は海軍兵學校の在る所にして北方遙に廣島と相望む其間に似ノ島あり宛然たる小芙蓉所謂安藝の小富士とは即ち是なり吳の大坂を距る百六十六海里瀛船は十六時間餘にして達すべし

宇品は廣島市の南、京橋川の海口に在りて昔時は洲渚泥濘船舶の碇泊、旅客の往來、物貨の運漕等には頗る不便なりしが一たび築港の業竣り棧橋の設けあるに及び頓に其面目を更め旅舍軒を並べ車馬の往來織るが如く其繁榮實に舊時に倍蓰せり港の南に宇品島ありて青松繁茂し嵐光波影と映帶し景致恰かも畫圖の觀あり其大阪を距る百七十六海里、瀛船は十七時間餘にして達すべし

柳井津は周防國玖珂郡に在りて前は笠佐島を控き東は大畑の瀬戸に枕み風景も亦佳なり此地物貨の流通繁く人家富庶、周防東南部の要港にして山口縣下屈指の商業地なり  
徳山は周防都濃郡に在りて舊藩毛利氏の城市なり市街國道に沿ひて

西北より斜めに東南に延ぶ南は徳山灣を擁し北は前山代諸村を控さ  
海陸の運漕頗る便にして漁船帆船常に寄泊し亦風致に富めり其大阪  
を距る二百五十二海里、汽船は二十五時間餘にして達すべし

三田尻は周防國佐波郡に在りて江泊半島其前に横はり港内水深から  
ざるも山口最近の要港なるを以て船舶の寄泊するもの常に間斷ある  
ことなく眺望も亦極めて佳なり

山口は周防に在り連山四圍し險惡の地方と稱せらる此地は往昔大内  
氏の據りし處なり

其他播磨の室津、備前の西大寺、備中玉島、高梁、笠岡、安藝の吉  
田等あり

〔名所、舊蹟、神社、佛閣〕舞子濱は古來有名の勝地にして播磨の東部  
に在り其他白沙青松相映じ風光尤も絶佳なり此處にも亦山陽鐵道

の停車場ありて行遊に便なり而して其松林中に龜屋、菊屋等の旅舎  
あり

高砂は播州に在り此地に有名なる高砂松(又相生松)幹左右に分れ枝葉  
長く地に垂る其他尾上松、尾上鐘、高砂神社、手枕松、曾根の天満  
宮、石の寶殿等あり石の寶殿は御影石にして四周に凹所あり天旱す  
るも水涸れずと云ふ、尾上の鐘は往昔は神后皇后の三韓より携歸り

玉ひたるものなりと傳ふ曾根松は昔公手栽の松なりと傳ふ此地に遊  
んど欲するものは山陽鐵道の加古川停車場より下車し再び乗車せん  
とするときは阿彌陀驛の停車場よりすべし

書寫山は姫路の西北凡そ一餘里に在り其頂上に伽藍あり圓教寺と稱  
し西國二十七番の札所なり其他此近傍に増位山隨願寺、廣峯神社等  
壯嚴雄麗の社寺あり

●閉谷學校は備前に在り此校は山陽鐵道水驛停車場より一里餘にして往時池田光政侯、碩儒熊澤蕃山に諮り經營したるものなるが結構壯麗當時天下に冠たりと稱す

●吉備津神社及び高松稻荷神社に詣んとする者は山陽鐵道の岡山又は庭瀬兩停車場の内何方より下車するも往復二時間餘を費せば足れり

●宗忠神社は備前に在り岡山驛より十二町黒住教本部の在る所なり

●大谷の金神は備中に在り鴨方停車場より一里半、玉島停車場よりは

二里餘あり

●圓通寺は玉島停車場より一里、四顧曠觀に富み内海來往の漁船帆船を坐視するを得其景色絶佳なり

●千光寺は備後の尾ノ道寺院中の最も著名なるものにして町の西北三丁許を登りたる所に在り寺宇壯麗にして古雅なり蓋し大同年間の開

基にして今の寺院は貞享年間の建立に係ると云ふ寺内に大石あり其形の似たるを以て烏帽子岩と呼ぶ壁徹たる玉の如し故に此地を名けて玉ノ浦と云ふ(或は傳ふ古昔岩上に寶珠ありて其光常に海面を照らす因て此地を玉ノ浦と稱す)と市街港内尙島等歴々として寸眸の中に集り風景秀絶登覽者として坐るに名畫を展き之に對するの想あらしむ

●仙醉島は鞆津港の對岸に在りて松樹蒼々翠色白波に映ず其傍の小島を辨天島と云ふ辨才天の小祠ありて共に風致に富めり

●阿武菟岬は鞆津の西一里に在り梳子の瀬戸を隔て、田島に對す元龜中毛利氏一字を建立せしが寛文七年水野氏牢固なる石燈を爲して觀

音堂を建てて以て觀音の像を安置す燈を登り堂に至れば嶮崖數尋の下洶然たる海潮巖角に觸れ銀碎け雪飛ぶ壯絶快絶奇景眞に弄ぶべし

沼名神社は鞆津の北方に在りて素盞鳴尊を奉祀する國幣小社なり相傳ふ尊出雲を發し南海に赴き玉ふと云々納に至り趾を關町に駐め玉ひしを以て此に鎮座しけるを天長中今の地(谷)に移祀せしを水野氏に至り鐘を鑄、華表を建て社宇を大にしたりしが明治十七年更に之を營造し益々宏壯を致せり

瀬戸は安藝國安藝郡に在りて鞆固村と相對す其間僅に五十餘間に過ぎず所謂穩戸の瀬戸是なり傳へ云ふ古昔此地は地頸たりしを平清盛安藝に主たりし時之を開鑿して舟運に便せし所なりと潮流急激奔雷を飛ばすの響は綠樹萬籟の聲に和す帆船は岸に倚て潮を候ひ潮應じ風順なるに及びて衆帆齊く張り疾徐其度に従ひて過ぐ寔に奇觀なり海中に清盛の塚あり以て一勝地とす其の大阪を距る百三十三海里、瀛船は十六時間にして達すべし

福山公園は福山を隔つこと數百歩のみ舊城廓にして樓閣相聳へ遠近の眺望に富めり

有年は播磨の西部にして山陽鐵道の停車場を置けり此地は南北朝の戦に赤松氏の據りたる白旗山古城の趾に近し

三原は備後に在り三原城の古趾、長井の浦等遊覽すべき所多し旅店は綾平、金丸、山平、其他數軒にして皆回漕業を兼ね而して此地には山陽鐵道の停車場あり

嚴島は守藝國佐伯郡の海中に在り日本三景の一にして周回七里餘市杵島、伊都伎島又宮島と稱す北廣島を距ること五里餘西大野村最とも近くして一里に過ぎず南は遙に防豫二州の諸山綿々として起つが如く伏すが如きを望み東は能美、江田の諸島青髮翠髮洗ふが如く拭ふが如さに對し山嶺巍峨として松杉鬱蒼たり櫻樹ありて艶陽の候

白雲長へに山腰に蹊躩し楓溪ありて秋爽の期錦霞遙かに嶺半に瀾漫す神社は三笠濱の下に在り此は平清盛の再建したる所にして市杵姫を祭る其結構崖に倚り水に架し左右に長廊を廻らし潮満つれば皆水上に浮ぶが如し其宏壯偉麗なる風景の秀潤妍媚なる一様の筆墨を以て其彷彿を寫す能はず全島名所舊蹟多くして一々列擧するに連あらざるなり而して此島には日を通航船あり旅舎は紅葉谷の岩物を重なるものとし松岡、岩村、梅林等ありて料理屋を兼ね錦帯橋は一に十露盤橋と云ふ周防岩國の西北綿川の流に架し五橋連絡して成れり長さ百二十五間最高の處を六尺とす此橋一の支柱なく夙に構造の奇巧を以て著はる

御神山は備中に在り山中怪巖奇石多く殊に石橋の如きは其狀最も奇にして帝釋の神橋と稱せり

大畑の瀬戸は周防の玖珂郡と大島郡との間に在りて潮流激甚奔雷の聲を爲し緑樹影を蘸して碧一層の碧を加ふ瀟洒の致、奇逸の態最も賞愛するに堪へたり

松崎神社は三田尻の北十八町宮市驛、酒垂山(一に天神)に在りて昔公を祀る縣社なり全山白砂にして清爽洗ふか如く所々に矮松を生じ翠色掬すべく山腰に花木ありて艶麗愛すべし近くは三田尻、江泊の勝景を掌上に收め遠くは二豊諸山の青髪を烟波彷彿の間に望む風趣清麗、眺曠佳絶なり

龜山神社は赤間關外濱町と神宮司町との間なる一丘上に在りて應神天皇を奉祀す境内には老樹鬱蒼として塵俗を絶ち硯海の風光得て掬すべく頗る眺望に富めり

赤間宮は赤間關阿彌陀寺町に在りて市人之を天皇社と云ふ其安徳天

皇を奉祀するを以てなり往昔此地に阿彌陀と稱する一寺ありしに依りて今の町名も斯く名けしと云ふ後は丘陵を負ひ前は早瀬の瀬戸に對す亦勝景の地なり

壇の浦は阿彌陀寺の東に沿ひて壇浦町あり其東數町は古來源平の古跡として永く世人に知られたる壇の浦是なり今は實に蕭條として唯だ其名の存するあるのみ

其他美作に院庄、備前に常山、長門に豊浦行宮趾あり皆歴史上の古趾なり

〔沿革〕本道の沿革を按ずるに仲哀天皇の朝、行宮の長門の豊浦に建て是より前國造縣主ありて各州を統治す大化改新の際之を廢して國司、郡領を置く北條氏の時中國探題を長門に置けり建武中興の際赤松則村播磨の守護に補せられ後叛して新田義貞の爲めに白旗城を圍

まる爾後應仁文明の亂ありて毛利吉川等の諸氏各々割據し毛利氏兵勢日に強く播磨美作備前を除くの外皆其有と爲す徳川氏に至り防長二州を毛利氏に與へ其他功臣を封せり爾後幾多の沿革を経て明治維新に及び藩と爲し後革めて現今の縣を置けり

〔鐵道〕本道には山陽鐵道及び播但鐵道路あり其驛名、哩程及び賃金は左の如し、但し左に掲ぐる賃金は下等賃金なり播但鐵道の特等賃金は並等賃金の二倍なりとす而して公衆電報取扱所の符號は(X)を用ふ

神	戸	(神 戸 一 哩)	
×兵	庫	一 哩	十 銀
×須	磨	四 哩	四 十五 銀
×舞	子	八 哩	十 二 銀
明	石	十一 哩	七 十六 銀
大	久	十五 哩	七 十一 銀
	保		
			十 九 銀



〔航路〕本道沿岸に於ける大阪商船會社瀨船の航路及び旅客乗船賃は左の左し

岡山玉島間				明石阪越間						
岡山	小豆島	高松	多度津	玉島	明石	高砂	飾磨	網干	室津	阪越
三二四	六四三	二七二	四三三	八三五	一八九六	一八九六	一八九六	一七五五	一五七五	一八九六
二二四	八四三	二七二	四三三	八三五	三〇五〇	一八九六	一八九六	一七五五	一五七五	三〇〇〇
三二四	六四三	二七二	四三三	八三五	三〇五〇	一八九六	一八九六	一七五五	一五七五	三〇〇〇
三二四	六四三	二七二	四三三	八三五	三〇五〇	一八九六	一八九六	一七五五	一五七五	三〇〇〇

鞆津及馬關門司間

音戸	尾道	竹原	鞆津	馬關	門司
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

四條	八木	八野	瀬野	海田	廣島
百七十哩十三銭	百七十三哩六十九銭	百八十哩廿六銭	百八十五哩六十六銭	百九十八哩六十二銭	神戶廣島間全線百九十八哩
一圓五十八銭	一圓六十一銭	一圓六十九銭	一圓七十銭	一圓七十銭	八時間に達す

乗換  
急行列車  
辨當販賣  
手水鉢  
九州連絡  
生野銀山、城崎温泉に往んとする者其他播但鐵道に接續は姫路驛にて乗換ふべし  
尾道門司間毎日直航往復瀨船あり双方相當の猶豫ありて船車連絡し九州への旅行に便なり  
姫路、岡山、糸崎には飲用水又は顔洗ひ場あり



又日本郵船會社の尾ノ道、神戸、馬關間の航路及び乗船賃は左の如し

前表に掲ぐるもの

吳	一〇	二〇	三〇	四〇	五〇	六〇	七〇	八〇	九〇	一〇〇
廣島	一〇	二〇	三〇	四〇	五〇	六〇	七〇	八〇	九〇	一〇〇
宮島	一〇	二〇	三〇	四〇	五〇	六〇	七〇	八〇	九〇	一〇〇
岩國	一〇	二〇	三〇	四〇	五〇	六〇	七〇	八〇	九〇	一〇〇
柳井	一〇	二〇	三〇	四〇	五〇	六〇	七〇	八〇	九〇	一〇〇
徳山	一〇	二〇	三〇	四〇	五〇	六〇	七〇	八〇	九〇	一〇〇
三田	一〇	二〇	三〇	四〇	五〇	六〇	七〇	八〇	九〇	一〇〇
馬關	一〇	二〇	三〇	四〇	五〇	六〇	七〇	八〇	九〇	一〇〇
門司	一〇	二〇	三〇	四〇	五〇	六〇	七〇	八〇	九〇	一〇〇

原位は切り上げて銀位に止  
 中等乗船賃は下等の五割を増  
 上等は中等の五割を増す又別室上等は中等の一倍とす表中三行に記し  
 たる乗船賃は右は下等、中は中等、左は上等なり

尾ノ道 神戸間

尾ノ道	上	中	下
神戸	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇
馬關	四、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇

一人口及風俗一本道の人口は四百十三萬六千四百廿一にして平均一方里の人口二千六百三十四に該當せり

播磨及び備中は其風俗慧敏にして播磨は稍々柔惰に流れ備中は新奇を好むの趣きあり美作及び長門は質朴にして備後及び周防は質直頑

一氣候及地味一本道は長門を除くの外、諸國は北に山を負ひ南に海を擁するを以て氣候自ら温暖なり然れども美作と長門の北海岸は寒威殊に甚し地味は安藝の全國と長門の東北部は概ね瘠地にして農耕に適せざれども其他は大抵肥沃なり而して本道の田畑は三十六萬八千餘町あり

一鑛山及物産一本道の鑛山中銅坑は播磨の龜硯山、美作の宮原、英田、西々條、久米諸郡、備中の川上、賀陽、小田各郡、安藝の豊岡、

賀茂、沼田、高宮、周防の玖珂、長門の阿武諸郡にあり、鐵坑は播磨の穴栗備中の阿賀各郡に數所と備後に十數所あり就中採出の多きは安藝を以て第一とし美作之に亞ぐ、石炭坑は備前の津高、兒島の兩郡、周防の吉敷郡及び長門の厚狹郡にして就中長門の厚狹郡には十數所ありて採出多し鐵石坑は備前和氣郡の野谷、播磨の神東郡、備後の惠蘇郡等に在り又鉛坑は播磨備中備後に在り本道は此の如く鑛物の種類頗る多きも特に採出の多量なるものは銅、鐵、石炭、及び鐵石なり

本道に於ける物産の重なるものは播磨の赤穂鹽、姫路草、龍野醬油、明石縮、明石珠、高砂染、美作の足袋、初雪(かき)、雲齋織、葛粉、燒酎(芋)、粟、烟草、備前の伊部燒、長船刀劍、命酒、備中の花蕙、烟草、木綿、備後の疊表、保命酒、安藝の牡蠣、木綿、竹細工、周

防の岩國縮布、蚊帳、長門の赤間硯、鹿子紋、篠細工、竹細工等なり

南 海 道

位置及疆域 南海道は本土の西南隅に位し東經百三十二度二十三分より百三十六度三十八分に至り北緯三十二度四十二分五十分より三十四度二十四分に至る其地紀伊は畿内の南に位する國にして東南は海に瀕し西北は海峡を隔て淡路島に接し東北の一部東海道の伊勢に疆し西は海を以て四國に對せり、四國は東南太平洋に臨み又海を隔て、西海道に對し西北は内海を以て山陽道に對す

地勢及面積 本道中紀伊の南部は高山峻嶺甚だ多く四國の山脈は東より西南に連り地勢を南北に分つ而して山谷森林の多きは土佐の北

部最も甚し此全面積千五百六十一方里餘東西八里乃至二十七里、南  
北七里乃至三十里にして淡路は三十六方里あり

山嶽本道に於けて著名の山岳は紀伊に大塔山、八鬼山、那智山、  
高野山(高二千六百尺)、龍門山等あり高野山には金剛峯寺と稱する著名の巨  
刹あり龍門山は高野山の東にして紀伊富士と云へり阿波の雲邊寺山  
は讃岐、伊豫に跨り其山脈土佐の境に沿ふて中部の大嶺に連り其他  
燒山寺、烏帽子等の諸山あり讃岐の八栗山(又五剣山)國の極北岸に聳  
へ其山頂の巖石恰も五剣を植へたるが如し故に五剣山の稱あり(現今  
の中一と)其山脈西北に延き屋島の山嘴と爲る又有名なる琴平神社を  
祀れる象頭山は甚だ高からずと雖も一の靈山なり伊豫の石槌山は國  
の東北部に峙ちて土佐に跨り其高さ六千四百七十二尺、四國第一の  
高山にして瓶森山と相對す

一河流本道に於ける河流中紀ノ川は源を大和に發し吉野川と稱し紀  
伊に入り諸川を合し漸く巨流と爲りて海に注ぐ其流程三十五里餘、  
日高川は源を紀伊の東境に發して海に入る其流程三十二里餘あり熊  
野川は源を河内の金剛山に發し十津川と稱し紀伊の南隅より諸流を  
合し熊野浦に注ぐ其流程三十五里、在田川は流程二十七里許にして  
熊野、在田の兩河と共に運漕に便なり阿波の那賀川は三源あり皆阿  
波の山中に發し流程二十八里餘にして紀伊海に入る吉野川は源を土  
佐の山谷に發し東流して阿波を過ぎ海に注ぐ其流程六十里餘、是れ  
本道第一の大河なり伊豫肱川は流程十里許にして海に入る四萬十川  
(又渡川)は源を土佐に發して海に入る其流程二十五里餘あり仁淀川は  
源を伊豫の山中に發し東南流して土佐に入り諸流を合し土佐灣に注  
ぐ其流程二十六里、物部川は源を土佐の東境に發し土佐灣に入る此

流程二十五里あり

〔海岸及港灣〕本道中紀伊の海岸は細小なる屈曲出入極めて多く四國の南北岸には最大なる彎曲あり其重なる港灣中大島港は紀伊に在り南海第一の良港にして船舶常に輻輳す其他田邊、加太、由良、有田等の諸港あり丸龜港は讃岐に在り其西南一里餘に多度津港あり瀬船帆船出入多し又高松港、志度浦港等あり宇和島、三津今治等の諸港は伊豫にありて共に繁盛なり其他土佐の浦戸、須崎、下田、清水等の諸港あり又灣の著名なるものは伊豫の西北面なる内海の西口を硫黃灘と云ひ紀伊の東南海にして西は鳴門海峡に連り東は伊豫海に接する所を熊野浦と云ひ土佐の南に嵯陀、室戸兩岬相對峙して一大灣を擁す之を土佐灣と云ふ

〔岬角及海峡〕紀伊の比井岬は海中に突出すること三十餘町其南端に

潮岬あり蒲生田岬は阿波に在り其附近岩礁多し讃岐の三崎と突出すること二里半餘にして伊豫の大島と遙に相對し伊豫の佐田岬は國の西端に突出すること十五里餘にして遙に豊後の地蔵崎と相對す又土佐の東南隅に室戸岬あり西南端に嵯陀岬あり兩岬相對して一大灣を爲す此近傍は危険なるを以て航海者の最も注意する所なりと云ふ

〔苦ヶ島海峡〕(又由良海)とは紀伊の友島と淡路の東南の間を云ひ鳴門海峡とは阿波の東北端と淡路の門崎との間を云ふ而して此處にて大鳴門、小鳴門の稱あり潮流常に相通りて二個の渦流を爲せり是れ本邦に於ける航海上最も危険なる所なり

〔島嶼〕淡路は四國の東北に在る一島國にして其周回三十八里廿余町島内に先山嶺へ其餘脈を松尾崎と云ひ其東南に在るを生石崎と云ひ西南に在るを門崎と云ふ地勢平夷にして肥沃なり本島の名邑を洲本